

北海道大学総合博物館年報  
(令和6年度)

目 次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| I. 沿革                        | 3  |
| II. 組織                       | 4  |
| A 総合博物館教職員                   | 4  |
| B 資料部研究員                     | 5  |
| C 各種委員会                      | 7  |
| III. 研究                      | 12 |
| A 学術標本の研究活用                  | 12 |
| B 教員の研究活動                    | 31 |
| IV. 教育                       | 55 |
| A 全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習 | 55 |
| B ミュージウムマイスター認定コース           | 56 |
| C パラタクソノミスト養成講座              | 56 |
| D 各教員が指導する院生や学生              | 58 |
| V. 社会貢献                      | 60 |
| A 展示                         | 60 |
| B セミナー                       | 72 |
| C 公開シンポジウム                   | 74 |
| D ボランティア活動                   | 74 |
| E 自治体や他機関との協定締結              | 75 |
| F その他                        | 76 |
| VI. 国際的な活動                   | 78 |
| A 各種協定締結                     | 78 |
| B 客員教授・外国人研究員                | 78 |

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| VII. 広報 博物館ニュース、HP、FB、新聞報道記録など | 79 |
| VIII. 令和6年度予算状況                | 88 |
| IX. 令和6年度の主な出来事                | 91 |
| X. 総合博物館の第4期（令和4～9年度）中期目標      | 92 |

## I. 沿革

北海道大学の前身、札幌農学校は 1876(明治 9)年に開校した。その翌年にはクラーク博士が『札幌農学校第 1 年報』において、将来の自然史博物館の基礎が着々と出来つつあることを述べている。博士が去って 7 年後の 1884(明治 17)年に札幌農学校は開拓使より植物園とともに園内の博物館を譲り受け、ここに附属博物館が実現した。札幌農学校開校以来 143 年の研究成果として、現在 400 万点を越す学術標本が学内に所蔵され、その中には 1 万 3 千点以上のタイプ標本が含まれている。これら貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し学内外に情報を発信するために、1966(昭和 41)年から総合博物館設置が検討されてきた。理学部本館建物を総合博物館として再利用し、延べ約 9,000 m<sup>2</sup>の総合博物館にする構想がまとめられ、1999(平成 11)年度、文部省より設置が認められた。2001(平成 13)年には、本学創基 125 周年次事業の一環として、第 1 期工事分 3,000 m<sup>2</sup>の改修が行われ公開展示が開始された。2014(平成 26)年には、第 2、第 3 期 6,000 m<sup>2</sup>の改修・耐震工事に着手し、2016(平成 28)年に展示室・収蔵庫・研究教育関連スペースを完備してリニューアルオープンした。総合博物館は、北大の教育・研究の成果を広く一般に公開する場として、また、貴重な学術標本を整理・保管し教育・研究に利活用する場として、その役割はますます大きなものとなっている。

なお、2007(平成 19)年には、水産科学研究院の水産資料館が、水産科学館として総合博物館の分館となった。その後、施設老朽化に伴い長期間にわたり休館していた収蔵・展示施設の建て替えが行われ、2024年(令和6年)に図書館とのMLA複合施設「水産科学未来人材育成館」が函館キャンパスに開館した。

## II. 組織

### A 総合博物館教職員

|               |                                                  |
|---------------|--------------------------------------------------|
| 館長            | 坪田敏男                                             |
| 水産科学館館長       | 今村 央                                             |
| 研究部長          | 江田真毅                                             |
| 副館長           | 大原昌宏、湯浅万紀子、小林快次、江田真毅                             |
| 資料部長          | 小澤丈夫                                             |
| 資料基礎研究系       | 学術標本の基礎研究や学際研究での利用並びに教育の利用に供するための業務              |
| 教授            | 大原昌宏（昆虫体系学）                                      |
| 准教授           | 阿部剛史（海藻分類学）                                      |
| 助教            | 田城文人（魚類分類学）                                      |
| 助教            | 首藤光太郎（植物体系学）                                     |
| 資料開発研究系       | 学術標本を教育・研究の素材として有効活用するための開発研究、並びに標本修復のための業務      |
| 教授            | 湯浅万紀子（博物館教育学）                                    |
| 教授            | 小林快次（古生物学）                                       |
| 教授            | 江田真毅（動物考古学）                                      |
| 助教            | 北野一平（岩石鉱物学）                                      |
| 特任助教          | 許 開軒（動物考古学）                                      |
| 博物館教育・メディア研究系 | 学術標本から得られた学術情報及び研究成果の公開・展示を基盤とした博物館教育の進展を図るための業務 |
| (兼)教授         | 湯浅万紀子（博物館教育学）                                    |
|               |                                                  |
| 研究支援推進員       | 市来紗都子                                            |
|               | 土田江里子                                            |
|               | 齋藤絵梨奈                                            |
| 事務局（※博物館担当）   |                                                  |
| 事務部長          | 岩佐俊明                                             |
| 課長補佐(総務担当)    | 渡邊勉                                              |

|              |       |
|--------------|-------|
| 課長補佐(研究支援担当) | 後藤 普  |
| 課長補佐(学務担当)   | 鈴木晴香  |
| 課長補佐(管理担当)   | 五十嵐由美 |
| 係長※          | 高橋宏市  |
| 主任※          | 山田久恵  |
| 事務補助員※       | 高橋千華子 |
| 技術補助員※       | 福岡久典  |

## B 資料部研究員

資料部長 小澤丈夫

| 研究員氏名  | 所属               | 職名   | 博物館担当教員 |
|--------|------------------|------|---------|
| 小亀 一弘  | 大学院理学研究院         | 教授   | 阿部剛史    |
| 四ツ倉 典滋 | 北方生物圏フィールド科学センター | 教授   | 阿部剛史    |
| 泉 洋江   | 総合博物館 (S206)     |      | 江田真毅    |
| 小野 裕子  | 総合博物館 (N104A)    |      | 江田真毅    |
| 加藤 博文  | アイヌ・先住民研究センター    | 教授   | 江田真毅    |
| 國木田 大  | 大学院文学研究院         | 准教授  | 江田真毅    |
| 高倉 純   | 埋蔵文化財調査センター      | 助教   | 江田真毅    |
| 増田 隆一  | 大学院理学研究院         | 教授   | 江田真毅    |
| 守屋 豊人  | 埋蔵文化財調査センター      | 特任助教 | 江田真毅    |
| 秋元 信一  | 本学退職職員 (S205B)   | 名誉教授 | 大原昌宏    |
| 池上 重康  | 大学院工学研究院         | 助教   | 大原昌宏    |
| 大舘 智志  | 低温科学研究所          | 助教   | 大原昌宏    |
| 柁原 宏   | 大学院理学研究院         | 教授   | 大原昌宏    |
| 菊田 融   | 総合博物館 (S206)     |      | 大原昌宏    |
| 菊地 那樹  |                  |      | 大原昌宏    |
| 木村 正人  | 本学退職教員 (S205B)   | 名誉教授 | 大原昌宏    |
| 小西 和彦  | 総合博物館 (S205B)    |      | 大原昌宏    |
| 佐々木 均  | 総合博物館 (S205B)    |      | 大原昌宏    |

|                 |                        |        |       |
|-----------------|------------------------|--------|-------|
| 下村 政嗣           | 本学退職職員                 | 名誉教授   | 大原昌宏  |
| 高久 元            | 北海道教育大学                | 教授     | 大原昌宏  |
| 戸田 正憲           | 本学退職教員 (S204B)         | 名誉教授   | 大原昌宏  |
| 三谷 朋弘           | 大学院農学研究院               | 准教授    | 大原昌宏  |
| 山口 諒            | 大学院先端生命科学研究院           | 助教     | 大原昌宏  |
| 山中 草叶           | 書家                     |        | 大原昌宏  |
| 山本 周平           | 総合博物館 元日本学術振興会特別研究員SPD |        | 大原昌宏  |
| 吉澤 和徳           | 大学院農学研究院               | 准教授    | 大原昌宏  |
| 渡部 英昭           | 総合博物館 (S205B)          |        | 大原昌宏  |
| 末富 弘            | 札幌学院大学経営学部             | 教授     | 小澤丈夫  |
| 金田 皓樹           | 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会       | 学術専門員  | 北野一平  |
| ゴータム ピ<br>タンバル  | 本学退職職員 (S206)          |        | 北野一平  |
| ブイ ティ<br>シン ブオン | 触媒科学研究所                | 学術研究員  | 北野一平  |
| 越前谷 宏紀          | 総合博物館 (S206)           |        | 小林快次  |
| 小野 修司           | 本学退職職員                 |        | 小林快次  |
| 久保田 克博          | 兵庫県立人と自然の博物館           |        | 小林快次  |
| 沢田 健            | 大学院理学研究院               | 教授     | 小林快次  |
| 新村 龍也           | 足寄動物化石博物館              |        | 小林快次  |
| 竹田 裕介           | 高輝度光科学研究センター           |        | 小林快次  |
| 田中 康平           | 筑波大学                   | 准教授    | 小林快次  |
| 田中 嘉寛           | 札幌市博物館活動センター           | 学芸員    | 小林快次  |
| 千葉 謙太郎          | 岡山理科大学                 | 講師     | 小林快次  |
| 中川 光弘           | 大学院理学研究院               | 特任教授   | 小林快次  |
| 西村 智弘           | むかわ町穂別博物館              |        | 小林快次  |
| 吉田 純輝           | 福島県立博物館                |        | 小林快次  |
| 東 隆行            | 北方生物圏フィールド科学センター       | 助教     | 首藤光太郎 |
| 乙黒 聡子           | 大学院薬学研究院               | 技術専門職員 | 首藤光太郎 |
| 小林 孝人           | 総合博物館 (S206)           |        | 首藤光太郎 |
| 近藤 誠司           | 本学退職教員                 | 名誉教授   | 首藤光太郎 |

|        |                   |       |       |
|--------|-------------------|-------|-------|
| 近藤 則夫  | 本学退職教員 (S206)     | 名誉教授  | 首藤光太郎 |
| 佐藤 謙   | 総合博物館 (S205B)     |       | 首藤光太郎 |
| 佐藤 広行  | (一社)九州オープンユニバーシティ |       | 首藤光太郎 |
| 佐野 雄三  | 大学院農学研究院          | 教授    | 首藤光太郎 |
| 高橋 英樹  | 本学退職教員            | 名誉教授  | 首藤光太郎 |
| 春木 雅寛  | 本学退職教員 (S205B)    |       | 首藤光太郎 |
| 富士田 裕子 | 本学退職職員            | 名誉教授  | 首藤光太郎 |
| 宮本 敏澄  | 大学院農学研究院          | 講師    | 首藤光太郎 |
| 持田 誠   | 浦幌町立博物館           |       | 首藤光太郎 |
| 谷亀 高広  | 昭和大学富士山麓自然・生物研究所  | 講師    | 首藤光太郎 |
| 河合 俊郎  | 大学院水産科学研究院        | 准教授   | 田城文人  |
| 川西 亮太  | 北海道教育大学釧路校        | 准教授   | 田城文人  |
| 木村 克也  | 大学院水産科学研究院        |       | 田城文人  |
| 五嶋 聖治  | 本学退職教員            | 名誉教授  | 田城文人  |
| 篠原 現人  | 国立科学博物館           |       | 田城文人  |
| 矢部 衛   | 本学退職教員            | 名誉教授  | 田城文人  |
| 山下 俊介  | 大学院水産科学研究院        | 特任准教授 | 田城文人  |
| 佐々木 亨  | 大学院文学研究院          | 特任教授  | 湯浅万紀子 |

## C 各種委員会（担当：博物館事務室）

・運営委員会

開催日

第1回：令和6年7月16日（オンライン開催）第2回：令和6年9月2日～20日（メール持ち回り開催）第3回：令和6年10月9日（オンライン開催）第4回：令和7年1月23日（オンライン開催）第5回：令和7年2月10日（オンライン開催）第6回：令和7年2月25日～3月3日（メール持ち回り開催）

委員会構成員：委員長 坪田敏男

| 部局名       | 職 名     | 氏 名   |
|-----------|---------|-------|
| 獣医学研究院    | 館 長     | 坪田 敏男 |
| 理事（附属図書館） | 副学長（館長） | 山本 文彦 |
| 文学研究院     | 教 授     | 谷古宇 尚 |

|                       |            |       |
|-----------------------|------------|-------|
| メディア・コミュニケーション<br>研究院 | 教 授        | 西川 克之 |
| 水産科学研究院               | 教 授        | 藤森 康澄 |
| 先端生命科学研究院             | 教 授        | 門出 健次 |
| 触媒科学研究所               | 教 授        | 浦口 大輔 |
| 歯学研究院                 | 教 授        | 八若 保孝 |
| 遺伝子病制御研究所             | 教 授        | 近藤 亨  |
| 総合博物館                 | 教授（研究部長）   | 江田 真毅 |
| 工学研究院                 | 教授（資料部長）   | 小澤 丈夫 |
| 水産科学研究院               | 教授（水産科学館長） | 今村 央  |
| 総合博物館                 | 教 授        | 大原 昌宏 |
| 総合博物館                 | 教 授        | 湯浅万紀子 |
| 総合博物館                 | 教 授        | 小林 快次 |
| 総合博物館                 | 准教授        | 阿部 剛史 |

・展示専門委員会

開催日

第1回：令和 6年8月22日（オンライン開催）第2回：令和 7年3月19日（オンライン開催）

委員会構成員：委員長 佐々木 亨

| 部局名     | 職 名      | 氏 名   |
|---------|----------|-------|
| 総合博物館   | 教授（研究部長） | 江田 快次 |
| 工学研究院   | 教授（資料部長） | 小澤 丈夫 |
| 総合博物館   | 教 授      | 大原 昌宏 |
| 総合博物館   | 教 授      | 湯浅万紀子 |
| 総合博物館   | 教 授      | 小林 快次 |
| 総合博物館   | 准教授      | 阿部 剛史 |
| 文学研究院   | 特任教授     | 佐々木 亨 |
| 水産科学研究院 | 特任准教授    | 山下 俊介 |

|       |     |        |
|-------|-----|--------|
| 総合博物館 | 助教  | 首藤 光太郎 |
| 総合博物館 | 助教  | 田城 文人  |
| 総合博物館 | 助教  | 北野 一平  |
| 文学研究院 | 准教授 | 久井 貴世  |

・学術標本検討専門委員会

開催日：令和 6 年 1 2 月 1 6 日（オンライン開催）

委員会構成員：委員長 小澤丈夫

| 部局名       | 職 名      | 氏 名    |
|-----------|----------|--------|
| 工学研究院     | 教授（資料部長） | 小澤 丈夫  |
| 総合博物館     | 教授（研究部長） | 江田 真毅  |
| 総合博物館     | 教 授      | 大原 昌宏  |
| 総合博物館     | 教 授      | 湯浅万紀子  |
| 総合博物館     | 教 授      | 小林 快次  |
| 総合博物館     | 准教授      | 阿部 剛史  |
| 総合博物館     | 助 教      | 田城 文人  |
| 総合博物館     | 助 教      | 首藤 光太郎 |
| 総合博物館     | 助 教      | 北野 一平  |
| 地球環境科学研究院 | 教 授      | 越川 滋行  |
| 農学研究院     | 准教授      | 吉澤 和徳  |
| 理学研究院     | 教 授      | 柁原 宏   |
| 医学研究院     | 助 手      | 中村 秀樹  |
| 水産科学研究院   | 准教授      | 河合 俊郎  |
| 文学研究院     | 教 授      | 高瀬 克範  |

・第2農場等の一般公開に関する専門委員会

開催日：令和6年11月6日（オンライン開催）

委員会構成員：委員長 岩淵和則

| 部局名        | 職 名      | 氏 名    |
|------------|----------|--------|
| 農学研究院      | 教 授      | 岩 淵 和則 |
| 総合博物館      | 教授（研究部長） | 江 田 真毅 |
| 工学研究院      | 教授（資料部長） | 小 澤 丈夫 |
| 農学研究院      | 准教授      | 石 井 一暢 |
| 農学研究院      | 准教授      | 三 谷 朋弘 |
| 工学研究院      | 准教授      | 角 哲    |
| 総合博物館      | 助 教      | 首藤光太郎  |
| 総合博物館      | 資料部研究員   | 近 藤 誠司 |
| 理学・生命科学事務部 | 事務部長     | 岩 佐 俊明 |
| 施設部        | 環境配慮促進課長 | 空 橋 博幸 |

・水産科学館専門委員会

開催日：開催なし

委員会構成員：委員長 今村 央

| 部局名     | 職 名        | 氏 名    |
|---------|------------|--------|
| 水産科学研究院 | 教授（水産科学館長） | 今 村 央  |
| 総合博物館   | 教授（研究部長）   | 江 田 真毅 |
| 総合博物館   | 助 教        | 田 城 文人 |
| 水産科学研究院 | 教 授        | 上 野 洋路 |
| 水産科学研究院 | 准教授        | 高 橋 勇樹 |
| 水産科学研究院 | 准教授        | 山 口 篤  |
| 水産科学研究院 | 准教授        | 阿 部 泰人 |
| 水産科学研究院 | 教 授        | 水 田 浩之 |
| 水産科学研究院 | 教 授        | 東 藤 孝  |
| 水産科学研究院 | 教 授        | 岸 村 栄毅 |
| 水産科学研究院 | 教 授        | 藤 本 貴史 |

・学内各種委員会対応

|                   |            |
|-------------------|------------|
| 全学教育科目責任者         | 北野一平       |
| 教務委員会学芸員養成課程専門委員会 | 研究部長（江田真毅） |
| フィールドセンター運営委員会    | 大原昌宏       |
| 埋蔵文化財調査センター運営委員会  | 江田真毅       |
| 生態環境マネジメント WG     | 大原昌宏       |
| 歴史的資産活用 TF        | 江田真毅       |
| 安全管理委員            | 阿部剛史       |
| 全学広報担当者会議         | 研究部長（江田真毅） |
| キャンパスマネジメント専門委員会  | 大原昌宏       |
| 大学文書館運営委員会        | 江田真毅       |
| 北海道大学 150 年史編集室員  | 江田真毅       |

### III. 研究

#### A 学術標本の研究活用

##### <陸上植物標本利用記録>（担当：首藤光太郎 助教）

陸上植物標本庫（SAPS）には、明治時代から北海道・千島・樺太を中心に採集された植物標本がおよそ 35 万点収蔵されている。国内でも有数の歴史・点数をもつ標本庫であり、道内に生育する植物を対象とした研究・教育活動や事業に日常的に利用されている。今年度は、36 名により 48 回の利用があった。借受（貸出）は展示目的のものが 1 件あった。他標本庫への重複標本等の寄贈はなかった。SAPSでの標本調査に基づく報文は、27 報出版された。

##### ・目的別点数のまとめ

| 研究 | 教育 | 展示 | その他 | 総数 |
|----|----|----|-----|----|
| 20 | 0  | 0  | 0   | 20 |

この数字は、利用申請書に記入されたものに基づいている。属や科といった高次分類群を 1 点と計数している場合があり、実際の標本点数を反映していない場合がある。また、申請の時点で調査対象分類群の収蔵点数が不明であり、未記入で申請・調査を行うことも多い。実際の利用点数はこの数字よりも遥かに大きいと思われるが、実態は不明である。

・標本庫利用（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書および標本庫のゲストブックに基づいており、実際の利用者の一部である）

| 利用期間      | 利用者     | 所属                    | 標本名        | 目的 | 点数 |
|-----------|---------|-----------------------|------------|----|----|
| 4.11      | 五十嵐 博   | 北海道野生植物研究所            | ラン科, アブラナ科 | 研究 |    |
| 4.18      | 佐々木 純一  | 北方山草会                 | 記載なし       | 研究 |    |
| 4.22      | 中村 拓    | 北海道大学理学院              | ブナ属        | 研究 |    |
| 5.14      | いがり まさし | MAPLART               | ネコノメソウ属    | 研究 |    |
| 5.16      | 富田 優子   | 北海道大学農学部              | アキカラマツ     | 研究 |    |
| 5.16      | 于 楷力    | 北海道大学環境科学院            | ウルップソウ     | 研究 |    |
| 5.16      | 桑原 亜澄   | 北海道大学農学部              | イチゲイチャクソウ  | 研究 |    |
| 5.20~8.31 | 星野 洋一郎  | 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター | ガンコウラン属    | 研究 |    |
| 5.22      | 新村 小枝   | 北海道大学環境科学院            | ガンコウラン     | 研究 |    |
| 5.24      | 新村 小枝   | 北海道大学環境科学院            | ガンコウラン     | 研究 |    |
| 5.29      | 新村 小枝   | 北海道大学環境科学院            | ガンコウラン     | 研究 |    |
| 6.5       | 矢野 興一   | 岡山理科大学生物地球学部          | スゲ属        | 研究 |    |

|          |               |                           |                              |    |    |
|----------|---------------|---------------------------|------------------------------|----|----|
| 7.2      | 于 楷力          | 北海道大学環境科学院                | ウルップソウ                       | 研究 |    |
| 7.2      | 富田 優子         | 北海道大学農学部                  | アキカラマツ                       | 研究 |    |
| 7.5      | 佐直 達夫         | 越後沼研究会                    | 水辺の植物                        | 研究 |    |
| 7.11     | 倉田 正観         | 北海道大学北方生物圏フ<br>ィールド科学センター | ケヨノミ                         | 研究 |    |
| 7.15     | 福田 知子         | 三重大学高等教育デザイ<br>ン・推進機構     | ユキノシタ科                       | 研究 |    |
| 7.22~23  | Cho, Yoori    | Seoul National University | リュウキンカ属                      | 研究 |    |
| 7.22~23  | Paek, Jangmeg | Seoul National University | リュウキンカ属                      | 研究 |    |
| 7.23     | 于 楷力          | 北海道大学環境科学院                | ウルップソウ                       | 研究 |    |
| 7.23     | 富田 優子         | 北海道大学農学部                  | アキカラマツ                       | 研究 |    |
| 8.1~2    | 小林 智          | 京都大学理学研究科                 | ウシノケグサ属                      | 研究 |    |
| 8.6~8    | 富田 優子         | 北海道大学農学部                  | アキカラマツ                       | 研究 |    |
| 9.5~6    | 岩崎 貴也         | お茶の水女子大学理学部               | クロミサンザシなど                    | 研究 |    |
| 9.5~6    | 高橋 弥生         | お茶の水女子大学基幹研究<br>院自然科学系    | クロモジ, オウレン                   | 研究 |    |
| 9.5~6    | 吉田 かなみ        | お茶の水女子大学理学部               | クロミサンザシ, クロビイ<br>タヤ, ホザキシモツケ | 研究 |    |
| 9.11     | 富田 優子         | 北海道大学農学部                  | アキカラマツ                       | 研究 |    |
| 9.11     | 于 楷力          | 北海道大学環境科学院                | ミヤマハンノキ                      | 研究 |    |
| 10.2     | 長澤 耕樹         | 農研機構                      | センブリ属                        | 研究 |    |
| 10.2     | 山本 将也         | 兵庫教育大学大学院学校教<br>育研究科      | センブリ属                        | 研究 |    |
| 10.4     | 長澤 耕樹         | 農研機構                      | センブリ属                        | 研究 |    |
| 10.4     | 山本 将也         | 兵庫教育大学大学院学校教<br>育研究科      | サクラソウ属                       | 研究 |    |
| 11.2     | 齋藤 央          | 北海道湿地踏査団                  | ヤナギタウコギ, ハナタ<br>ネツケバナなど      | 研究 | 20 |
| 11.18    | 浅井 元朗         | 農研機構                      | イネ科など                        | 研究 |    |
| 12.11    | 甘田 岳          | 森林総合研究所                   | イソツツジ属                       | 研究 |    |
| 12.17~19 | 志賀 隆          | 新潟大学教育学部                  | 絶滅危惧種標本, 水草                  | 研究 |    |
| 12.17~19 | 三浦 克仁         | 新潟大学自然科学研究科               | 絶滅危惧種標本, 水草                  | 研究 |    |
| 12.19    | 佐藤 利幸         | 信州大学理学部                   | シダ植物                         | 研究 |    |

|         |        |                  |          |    |  |
|---------|--------|------------------|----------|----|--|
| 12.24   | 王 奇志   | 華僑大学化工学院         | ウマノミツバ属  | 研究 |  |
| 12.24   | 白 玉娥   | 内蒙古農業大学          | 裸子植物     | 研究 |  |
| 1.9~10  | 浅井 元朗  | 農研機構             | イネ科など    | 研究 |  |
| 2.19    | 水島 未記  | 北海道博物館           | 樺太産標本    | 研究 |  |
| 2.27    | 内田 暁友  | 所属なし             | ドジョウツナギ属 | 研究 |  |
| 3.18    | 坂根 駿   | 京都大学人間環境学部       | ツツジ属     | 研究 |  |
| 3.18    | 阪口 翔太  | 京都大学人間環境学部       | ツツジ属     | 研究 |  |
| 3.19    | 崎尾 均   | 新潟大学佐渡自然共生科学センター | 標本庫見学    | 研究 |  |
| 3.21    | 渡辺 洋一  | 千葉大学園芸学研究院       | カバノキ科    | 研究 |  |
| 3.26~27 | 高嶋 八千代 | 所属なし             | 標本庫見学    | 研究 |  |

・借受（貸出のみ）

| 利用期間     | 利用者   | 所属   | 標本名  | 目的 | 点数 |
|----------|-------|------|------|----|----|
| 6.4~10.9 | 佐藤 壮馬 | 所属なし | ハルニレ | 展示 | 2  |

・寄贈受け入れ

| 利用期間 | 寄贈者   | 所属      | 標本名        | 目的 | 点数    |
|------|-------|---------|------------|----|-------|
| 1.20 | 海老原 淳 | 国立科学博物館 | 堀江健二コレクション | 展示 | 1,910 |

SAPS では学内/学外者による標本寄贈が日常的に行われている。例年、ここでは大型のコレクションの受入（1,000 点以上）のみを記すこととしている。2024 年度は、国立科学博物館からの寄贈受け入れが1件あった。

・新規整理登録標本

北海道産維管束植物標本 約 2,000 点

・利用に基づく報文（27 報）

1. Suetsugu K, Hirota SK, Yagame T, Yukawa T and Suyama Y. 2024. Taxonomic revision of the formerly monotypic orchid genus *Dactylostalix*. *Phytotaxa* **652**(2): 83–99.
2. Suetsugu K, Hirota SK, Suyama Y. 2024b. A new natural hybrid *Goodyera* × *kazumae* (Orchidaceae) from Tomakomai City, Hokkaido Prefecture, Japan. *Taiwania* **69**(3): 309–316.
3. Sarwar AKMG, Takahashi H. 2024. Pollen Morphology of *Primula* (Primulaceae) in Japan and Its Systematic Implications. *Journal of Japanese Botany* **99**(3): 159–172.
4. Yano O, Shutoh K, Kato Y, Ikeda H. 2024. Lectotypification of *Carex* (Cyperaceae) described by Shigeo Akiyama in the Herbarium of the Hokkaido University Museum (SAPS) (2). *Journal of Japanese Botany* **99**(3): 173–181.
5. Nakagawa H, Sato K, Tanaka N, Shutoh K. 2024. A new record of *Festuca probatovae* (Poaceae), a previously neglected species in the Japanese Flora. *Journal of Japanese Botany* **99**(3): 182–189.
6. Shutoh K, Vasques DT, Ikeda H. 2024. Lectotypification of *Adonis multiflora* (Ranunculaceae). *Journal of Japanese Botany* **99**(5): 325–328.
7. Nakagawa H, Sato K, Shutoh K. 2024. A new record of *Festuca auriculata* (Poaceae) in Japan. *Journal of Japanese Botany* **99**(5): 332–339.
8. Shutoh K, Michikawa F, Igarashi H, Tsuyuzaki S. 2025. Re-recognition of potentially introduced *Symphyotrichum ciliatum* (Ledebour) G. L. Nesom (Asteraceae) after a half century in Japan. *Acta phytotaxonomica et geobotanica* **76**(1): 51–55.
9. 高橋英樹. 2024. 北海道大学総合博物館植物標本庫 (SAPS) に保管されている北海道最古の植物標本コレクション『蝦夷草木腊葉帖』(1799). 植物地理・分類研究 **72**(2): 111–131.
10. 角野康郎, 松下(宮野)和江, 内田暁友. 2024. 道東地域初記録となる標津川の河跡湖におけるイヌタヌキモの確認. 植物地理・分類研究 **72**(2): 143–145.
11. 堀清鷹. 2024. 北海道で確認された倍数性の異なる二つのイワデンダ属(イワデンダ科)不稔雑種. 植物研究雑誌 **99**(3): 190–199.
12. 横山(木村)耕. 2024. タカネナルコ(カヤツリグサ科)北海道に産す. 植物研究雑誌 **99**(3): 206–209.
13. 首藤光太郎, 藤田玲, 菊地賢, 中川博之, 横山(木村)耕. 2024. 絶滅危惧種ヤツガタケムグラ(アカネ科)は北海道に広く分布する. 植物研究雑誌 **99**(4): 260–264.
14. 矢野興一, 鐵慎太郎, 首藤光太郎. 2024. 岡山県瀬戸内市前島で見出されたコゴメスゲ(カヤツリグサ科)および岡山県内での分布. 莎草研究 (26): 45–49.
15. 首藤光太郎. 2024. 北海道で築かれた植物標本と植生学の良好な関係とその価値・課題. 植生情報 (28): 26–30.
16. 首藤光太郎, 山崎真実, 中里清孝. 2024. 北海道羊蹄山麓半月湖の水生植物相. 水草研究会誌 (116): 1–10.
17. 山崎真実, 首藤光太郎. 2024. 第45回水草研究会全国集会(札幌)を振り返って. 水草研究会誌 (116): 53–58.
18. 五十嵐博. 2025. クロミサンザシ(バラ科)の北海道分布. 旭川市北邦野草園研究報告 (13): 1–6.
19. 中川博之. 2025. ハイハマボスの新産地と分布について. 旭川市北邦野草園研究報告 (13): 7–11.
20. 中川博之・佐藤 謙. 2025. 知床半島知西別川支流露岩地の植物相. 旭川市北邦野草園研究報告 (13): 43–

55.

21. 五十嵐博. 2025. シラトリシャジン（キキョウ科）の北海道分布. 北方山草 (42): 15-17.
22. 五十嵐博. 2025. エゾキンボウゲ（キンボウゲ科）の北海道分布. 北方山草 (42): 30-32.
23. 新田紀敏. 2025. 絶滅危惧種の発見 マツバニンジン. 北方山草 (42): 50-52.
24. 齋藤央. 2025. ハナタネツケバナ *Cardamine pratensis* あれこれ -新自生地発見2件（浜中町・厚岸町）、再発見1件（別海町）、ほか-. 北方山草 (42): 69-77.
25. 首藤光太郎. 2025. ケカナダアキノキリンソウ問題の一時的打開を語る. 北方山草 (42): 79-83.
26. 山崎真実, 首藤光太郎. 2025. 札幌地域の絶滅危惧植物の現状について（予報）. 北方山草 (42): 107-116.
27. 首藤光太郎. 2024. 北海道で展開された植物分類・系統・進化学の今昔. Arctic Circle（北海道立北方民族博物館友の会季刊誌）(131): 14-17.

### <菌類標本利用記録>（担当：小林孝人 資料部研究員・近藤則夫 資料部研究員・首藤光太郎 助教）

菌類標本庫（SAPA）には、明治時代から採集されてきた菌類および植物病理標本が収蔵されている。例年、採集と同定を管理者の小林孝人が行い、乾燥標本を新たに収蔵・保管している。この際、標本はラベルを小林孝人が記入し、標本袋を菌類ボランティアの方々が作成している。2024年度は、来庫者は1名であった。研究目的の貸出が2件あり、SAPAの利用に基づく報文が1報出版された。このほか、現在キナメツムタケの乾燥標本を利用した顕微鏡観察とDNA塩基配列の分析に関する報文を投稿中である。

#### ・目的別点数のまとめ

| 研究 | 教育 | 展示 | その他 | 総数 |
|----|----|----|-----|----|
| 1  | 0  | 0  | 0   | 1  |

この数字は、借用時に記入されたものに基づいている。分類群標本1点を1点と計数している。

・標本庫（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である）

| 利用期間 | 利用者 | 所属     | 標本名 | 目的 | 点数 |
|------|-----|--------|-----|----|----|
|      | 星野保 | 八戸工業大学 |     | 研究 |    |

#### ・借受（貸出）

| 利用期間      | 利用者  | 所属      | 標本名      | 目的 | 点数 |
|-----------|------|---------|----------|----|----|
| 6.12~8.21 | 柿蔭 眞 | 国立科学博物館 | Puccinia | 研究 | 32 |
| 7.1~11.15 | 田中榮爾 | 石川県立大学  | Tilletia | 研究 | 5  |

#### ・寄贈標本

標本庫管理者以外からの新たな標本寄贈はなかった。

SAPA 標本が引用された主な論文

1. Kakishima M, Xin J, Hosaka K, Hosoya T. 2024. Rust fungi (Pucciniales) on Cyperaceae in Japan, with 2 new names, 5 new combinations and typifications. Phytotaxa 666 (4): 229-256.

＜海藻標本利用記録＞（担当：阿部剛史 准教授）

＜昆虫標本利用記録＞（担当：大原昌宏 教授）

北海道大学の院生や学生の利用は、定期的にある。学外の研究者や院生などによる当館の使用は、例年に比べ少なかった。

・標本庫利用（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書および標本庫のゲストブックに基づいており、実際の利用者の一部である）

| 利用期間     | 利用者              | 所属                          | 標本名                    | 目的 | 点数 |
|----------|------------------|-----------------------------|------------------------|----|----|
| 4.19     | 奥野雄太             | 帯広畜産大学                      | Diptera                | 研究 | 不明 |
| 6.20     | 瑤寺 裕             | 京都府立大学                      | Lepidoptera・Coleoptera | 研究 | 不明 |
| 7.6-7    | 荒島 弾             | 九州大学                        | Lepidoptera            | 研究 | 不明 |
| 7.15-16  | Jong Bae<br>min  | Chungnam Univ.,<br>Korea    | Hymenoptera            | 研究 | 不明 |
| 9.15-18  | Ian dela<br>Cruz | Caraga Univ.,<br>Philippine | Coleoptera             | 研究 | 不明 |
| 9. 19    | 野崎 翼             | 九州大学                        | Coleoptera             | 研究 | 不明 |
| 7. 24    | Sang Kyu<br>Shin | Seoul Univ., Korea          | Diptera                | 研究 | 不明 |
| 10.7-11  | 江口一馬             | 弘前大学                        | Diptera                | 研究 | 不明 |
| 10.22    | 倉西 良一            | 元千葉中央博物館                    | Tricoptera             | 研究 | 不明 |
| 10.29    | 原 秀穂             | 元北海道林業試験場                   | Hymenoptera            | 研究 | 不明 |
| 11.8     | 小嶋 研二            | 東京都                         | Lepidoptera            | 研究 | 不明 |
| 11.29-30 | 菅原 賢寿            | 八街市                         | Coleoptera             | 研究 | 不明 |
| 12.2-5   | 木野田 毅            | 都城市                         | Coleoptera             | 研究 | 不明 |

・借受

| 利用期間   | 利用者              | 所属                      | 標本名         | 目的 | 点数       |
|--------|------------------|-------------------------|-------------|----|----------|
| 4.22   | 奥野雄太             | 帯広畜産大学                  | Diptera     | 研究 | 47 exs.  |
| 6.20   | 瑤寺 裕             | 京都府立大学                  | Lepidoptera | 研究 | 40 exs.  |
| 7.7    | 屋宜 禎央（岡<br>太陽）   | 九州大学                    | Lepidoptera | 研究 | 171 exs. |
| 7.7    | 屋宜 禎央（荒<br>島 弾）  | 九州大学                    | Lepidoptera | 研究 | 105 exs. |
| 8.1    | Sunghoon<br>Jung | Chungnam<br>Univ. Korea | Hymenoptera | 研究 | 78 exs.  |
| 8.1    | Sunghoon<br>Jung | Chungnam<br>Univ. Korea | Hymenoptera | 研究 | 108 exs. |
| 10. 11 | 江口一馬             | 弘前大学                    | Diptera     | 研究 | 143 exs. |
| 12.2-5 | 木野田 毅            | 都城市                     | Coleoptera  | 研究 | 273 exs. |

・寄贈標本

| 寄贈者名                  | 標本名             | 点数                            | 受け入れ日    |
|-----------------------|-----------------|-------------------------------|----------|
| 近藤敬治（北広島市・北大<br>名誉教授） | 哺乳類の体毛標本（国内、国外） | スライド標<br>本・体毛標<br>本など 12<br>箱 | 10 月 16日 |

・新規整理登録標本

| 標本名                          | 整理・登録                | 点数   |
|------------------------------|----------------------|------|
| SEHU-insect（昆虫類：鞘<br>翅目、膜翅目） | 登録（S-NET/GBIF 掲載データ） | 5000 |

・ SEHU 標本が引用された主な論文 14 件

1. Suenaga, H., 2023. Two new species of *Clavicornaltica* Scherer (Coleoptera, Chrysomelidae, Galerucinae) from the Ryukyu Islands, Southwestern Japan, with a redescription of *C. sakishimana* Suenaga and Yoshida. *Zootaxa*, 5301 (4): 447–460.
2. Suenaga, H. and C.-F. Lee, 2024. Taxonomic studies on the genus *Altica* Geoffroy (Coleoptera, Chrysomelidae, Galerucinae, Alticini) in Taiwan: Re-evaluation of *A. himalayensis* (Chen), *A. cyanea* (Weber), and *A. caerulea* (Olivier). *Formosan Entomologist*, 43 (2): 49–65.
3. Suenaga, H. and H. Shigetoh, 2024. A new species of the genus *Epaenidea* Gressitt et Kimoto (Coleoptera, Chrysomelidae, Galerucinae) from the Kerama Islands, Ryukyu

- islands, southwestern Japan with a redescription of *E. elegans* Kimoto et Gressitt. *Elytra*, (n. ser.), 14 (1): 1–9.
4. Tasaku, Y. and M. Takenaka, 2024. First record of the bird nest-associated rove beetle *Hylota ochracea* Casey, 1906 (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) from Japan. *Elytra*, (n. ser.), 14 (1): 10–12.
  5. Takemoto, T., 2024. New records of *Zeugophora japonica* Chûjô, 1951 (Coleoptera, Megalopodidae, Zeugophorinae) from Akita prefecture, Honshu, Japan. *Elytra*, (n. ser.), 14 (1): 19–20.
  6. Akiyama, H., T. Niisato and W.-I Chou, 2024. Taxonomic study of the family Oedemeridae Latreille, 1810 (Coleoptera, Tenebrionoidea) in Taiwan. *Elytra*, (n. ser.), 14 (2): 123–206.
  7. Nakamura, R. and R. Sato, 2024. A new record a new synonym of the genus *Planetes* (Coleoptera, Carabidae, Galeritini) from Japan. *Elytra*, (n. ser.), 14 (2): 259–265.
  8. dela Cruz, I. N., S. Hartini, D. Dwibadra and M. Ôhara, 2024. Contribution to the knowledge of the genus *Atholus* (Coleoptera: Histeridae: Histerinae: Histerini) from the Indonesian Archipelago. *Species Diversity*, 29: 119–139. doi.org/10.12782/specdiv 29.119
  9. Kikuchi, T. and M. Ôhara, 2024. Taxonomic Note of *Sphaerites glabratus* (Fabricius, 1792) (Coleoptera, Histeroidea, Sphaeritidae) from Japan. *Japanese Journal of Entomology* [昆虫 (ニューシリーズ)], 27 (1): 21–31.
  10. 大原昌宏・田作勇人・柏崎 昭・中岡利泰・高木大稔・小川直記・菊地波輝・山本ひとみ, 2024. 北海道えりも町豊似湖周辺ほか昆虫調査報告. VIII. 甲虫類6. えりも研究, (21): 1–4.
  11. Shimonaka, J., M. Ôhara, and Y. Minoshima, 2024. Distributional records of *Hydrobius fuscipes* (Linnaeus, 1758) from Hokkaido, Japan, with notes of Japanese species of *Hydrobius* (Coleoptera, Hydrophilidae). *Elytra*, (n. ser.), 14 (1): 75–84.
  12. Shimonaka, J., Y. Tasaku and M. Ôhara, 2024. Records of *Enocharus haroldi* (Sharp, 1884) and *Laccobius fragilis* Nakane, 1966 (Coleoptera, Hydrophilidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, (n. ser.), 14 (2): 214–216.
  13. dela Cruz, I. N., X.-F. Li and M. Ôhara, 2024. Some of the histerini beetles collected from cow dung in Liaoning Province, China, with a new record of *Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus* (Coleoptera, Histeridae). *Elytra*, (n. ser.), 14 (2): 247–248.
  14. 大原昌宏・小嶋研二, 2024. クマゲラの巣立ち後巣内から得られた甲虫4種. *Sayabane*, (n. ser.), (56): 56.

## ＜魚類標本利用記録＞（担当：田城文人 助教）

### 【利活用】

本学の魚類標本は、日常的に教員・学生の研究、および学生の教育に活用されている。その他にも、国内外から多数の標本借用の要望があり、本学以外の研究者にも活用されている。

### ・ 目的別点数のまとめ

| 研究   | 教育 | 展示 | その他 | 総数   |
|------|----|----|-----|------|
| 2954 | 0  | 5  | 190 | 3149 |

### ・ 標本庫（総合博物館構成員の利用は除く）

| 利用期間     | 利用者          | 所属                     | 標本名          | 目的 | 点数   |
|----------|--------------|------------------------|--------------|----|------|
| 4.1-3.31 | 古庄 誠         | 北海道大学水産科学院             | 中深層性魚類他      | 研究 | 500  |
| 4.1-3.31 | 小幡 光汰        | 北海道大学水産科学院             | ベロガレイ科魚類他    | 研究 | 300  |
| 4.1-3.31 | 樋口 淳也        | 北海道大学水産科学院             | ホウボウ科魚類他     | 研究 | 300  |
| 4.1-3.31 | 濱田 幸穂        | 北海道大学水産科学院             | アンコウ属魚類他     | 研究 | 50   |
| 4.1-3.31 | 李 珩浩         | 北海道大学水産科学院             | ゲンゲ科魚類他      | 研究 | 20   |
| 4.1-3.31 | 松本 堅         | 北海道大学水産科学院             | チゴダラ科魚類・サメ類  | 研究 | 100  |
| 4.1-3.31 | 張 逸帆         | 北海道大学水産科学院             | ソコイワシ科魚類     | 研究 | 20   |
| 4.1-3.31 | 二瓶 聡         | 北海道大学水産科学院             | アシロ目魚類       | 研究 | 30   |
| 4.1-3.31 | 米田 徳悦        | 北海道大学水産科学院             | アオダイ属魚類      | 研究 | 10   |
| 4.1-3.31 | 大石橋 夏希       | 北海道大学水産学部              | 野村コレクション（魚類） | 研究 | 120  |
| 4.1-3.31 | 小野 愛奈        | 北海道大学水産学部              | クチバシカジカ科魚類   | 研究 | 20   |
| 4.1-3.31 | 清水 孝太郎       | 北海道大学水産学部              | ミヤベイワナ       | 研究 | 130  |
| 4.1-3.31 | 城 吉乃         | 北海道大学水産学部              | アネサゴチ属魚類     | 研究 | 30   |
| 4.1-3.31 | 田中 颯真        | 北海道大学水産学部              | カラフトソコダラ     | 研究 | 240  |
| 4.1-3.31 | 山口 篤・松野 孝平 他 | 北海道大学水産科学院<br>プランクトン教室 | プランクトン標本     | 研究 | 10 回 |
| 4.1-3.31 | その他外部利用      | 10名                    | 魚類           | 研究 | 900  |

### ・ 借受

| 利用期間     | 件数  | 標本名                    | 目的 | 点数  |
|----------|-----|------------------------|----|-----|
| 4.1-3.31 | 1件  | 魚類標本                   | 展示 | 2   |
| 4.1-3.31 | 13件 | 魚類標本（貸出）               | 研究 | 115 |
| 4.1-3.31 | 4件  | 魚類標本DNA解析用試料<br>資料（寄贈） | 研究 | 64  |

|          |    |          |     |     |
|----------|----|----------|-----|-----|
| 4.1-3.31 | 1件 | 魚類標本（交換） | 研究  | 5   |
| 4.1-3.31 |    | みんなの博物館  | その他 | 190 |

・ 寄贈標本

| 標本名  | 寄贈者名        | 点数  |
|------|-------------|-----|
| 魚類標本 | 非公開（2 名・機関） | 200 |

・ 新規整理登録標本

| 標本名  | 整理・登録                  | 点数   |
|------|------------------------|------|
| 魚類標本 | 登録（HUMZ 235031-236608） | 1578 |
| 魚類標本 | 整理                     | 多数   |

・ 証拠標本として利用された主な論文

1. Yatsuyanagi, T., Kanbe, T., Fujii, K., Inoue, A. and Araki, H. 2024. Environmental DNA unveils deep phylogeographic structure of a freshwater fish. *Mol. Ecol.*, 33: e17337. DOI: 10.1111/mec.17337.
2. Kimura, K., Misawa, R. and Tashiro, F. 2024. Descriptions of post-settlement juveniles of 3 greeneye species, *Chlorophthalmus nigromarginatus*, *C. acutifrons*, and *C. albatrossis* (Teleostei: Chlorophthalmidae), from Japan, with notes on their rapid metamorphosis after settlement. *Fishery Bulletin* 122: 186–202.
3. Sakai, H., Iwata, A., Watanabe, K. and Goto, A. 2024. Taxonomic re-examination of Japanese brook lampreys of the genus *Lethenteron* with descriptions of two new species, *Lethenteron satoi* sp. nov. and *Lethenteron hattai* sp. nov., and re-description of *Lethenteron mitsukurii*. *Ichthyol. Res.* DOI: 10.1007/s10228-024-00997-7.
4. Su, Y., Lin, C.-F. and Chu, T.-W. 2024. A new record of an armored searobin, *Paraheminodus kamoharai* (Actinopterygii: Perciformes: Triglidae), from Taiwan, with a checklist of peristediines (Peristediinae) from Taiwan. *Acta Ichthyol. Piscat.* 54: 131–137.
5. Su, Y., Kotlyar, A. N., Lin, H.-C., Kawai, T. and Ho, H.-C. 2024. A new species of *Hoplostethus* from Sumatra, eastern Indian Ocean, with comments on its most similar congeners (Trachichthyiformes: Trachichthyidae). *J. Fish. Biol.* DOI: 10.1111/jfb.15975.
6. Matsunuma, M., Seah, Y. G. and Motomura, H. 2024. Review of *Apistus* (Synanceiidae: Apistinae) with description of a new species from the Arabian Sea and taxonomic status of *Apistus balnearum* Ogilby 1910, a junior synonym of *Apistops caloundra* (De Vis 1886). *Ichthyol. Res.* DOI: 10.1007/s10228-024-00998-6.
7. Misawa R., Inuzuka, A., Fujiwara, K., Furusho, M., Tashiro, F., Takami, M. and Kai, Y. 2024. Records of the Rare Flabby Whalefishes *Cetomimus hampeli* and *Gyrinomimus*

- bruuni* (Teleostei: Beryciformes) from Japan. Spec. Divers., 29: 269–279.
8. White, W. T., O'Neill, H. L., Yang, L. and Naylor, G. J. P. 2024. Reallocation of the magnificent catshark *Proscyllium magnificum* Last & Vongpanich, 2004 to the genus *Ctenacis* Compagno, 1973 (Carcharhiniformes: Proscylliidae). J. Fish. Biol. DOI: 10.1111/jfb.15969.
  9. Hata, E. and Motomura, H. 2024. *Neotrygon yakkoiei*, a new bluespotted maskray (Dasyatidae) from Japan. Ichthyol. Res. DOI: 10.1007/s10228-024-00989-7.
  10. 畑 瑛之郎・黒木健介・本村浩之. 2024. 与論島初記録のハシナガヤモリザメ, および本種に近似するタイワンヤモリザメの日本国内における分布状況. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 50: 16–22.
  11. Ho, H.-C. and Kawai, T. 2024. Verification of two barracudina species *Lestrolepis japonica* (Tanaka, 1908) and *L. philippina* (Fowler, 1934) (Aulopiformes, Paralepididae). ZooKeys, 1220: 79–92.
  12. Fan, Y.-C., Su, Y., Lin, C.-H., Chang, C.-W. and Lin, H.-C. 2024. *Polymixiamelanostoma*, a new beardfish from the western Pacific (Teleostei, Polymixiiformes, Polymixiidae). ZooKeys, 1220: 105–121.
  13. Ebert, D. A., Krajangdara, T., Fahmi and Kemper, J. M. 2024. *Chimaera supapae* (Holocephali: Chimaeriformes: Chimaeridae), a new species of chimaera from the Andaman Sea of Thailand. Raff. Bull. Zool, 72: 84–90.
  14. Kurihara, H., Shirai, S. M., Fujiwara, K. and Ikeda, M. 2024. Indel variation in the mitochondrial ND5 region supports monophyly of the tribe Hippoglossoidini (sensu Vinnikov et al. 2018) within the family Pleuronectidae. Ichthyol. Res. DOI: 10.1007/s10228-024-00978-w.
  15. Da Silva, J. P. C. B., Medeiros, J., Araújo, M. V. G., Lima, D. P., Mianutti, L. F., Mafaldo, H., Lima, A. D. and Naylor, G. J. P. 2024. The appendicular skeleton of the enigmatic shark *Leptocharias smithii* in comparison with other sharks of the order Carcharhiniformes (Elasmobranchii: Leptochariidae). J. morph. DOI: 10.1002/jmor.21744.
  16. Obata, K., Sugiyama, A., Kawai, T., Tashiro, F., Imamura, H., Aungtonya, C. and Tuanapaya, S. 2024. Deep-sea fishes from the Andaman Sea by R/V Chakratong Tongyai during 1996–2000. Part 8: order Myctophiformes. Phuket Mar. biol. Cent. Res. Bull. 81: 27–50.
  17. Kawai, T., Tashiro, F., Nakayama, N., Kumagai, Y., Aungtonya, C. and Tuanapaya, S. 2024. Deep-sea fishes from the Andaman Sea by R/V Chakratong Tongyai during 1996–2000. Part 9: orders Chimaeriformes, Carcharhiniformes, Torpediniformes and Rajiformes. Phuket Mar. biol. Cent. Res. Bull. 81: 93–104.
  18. Ng, S.-L., Straube, N., Liu, K.-M. and Joung, S.-J. 2025. Confusions across the hemispheres: Taxonomic re-evaluation of two lanternshark species, *Etmopterus lucifer* and *E. moller*i (Squaliformes: Etmopteridae). Vertebr. Zool., 75: 59–86.

19. Matsunuma, M., Kanai, S., Seah, Y. G., Tashiro, F. and Motomura, M. 2025. Resurrection of the five-ocellated left-eye flounder *Pseudorhombus ocellifer* Regan 1905 (Paralichthyidae), with redescrptions of *Pseudorhombus pentophthalmus* Günther 1862 and *Pseudorhombus oculocirris* Amaoka 1969. Ichthyol. Res. DOI: 10.1007/s10228-025-01019-w.
20. Shimada, K. et al. 2025. Reassessment of the possible size, form, weight, cruising speed, and growth parameters of the extinct megatooth shark, *Otodus megalodon* (Lamniformes: Otodontidae), and new evolutionary insights into its gigantism, life history strategies, ecology, and extinction. Paleont. Elect., 28: a12. DOI: 10.26879/1502.

### <古生物学標本利用記録>（担当：小林快次 教授）

北海道大学の院生や学生の利用が定期的にあった。脊椎動物化石だけではなく、植物化石や無脊椎動物化石など、広い分類群にわたり研究利用があった。

#### ・目的別点数のまとめ

| 研究  | 教育 | 展示 | その他 | 総数  |
|-----|----|----|-----|-----|
| 400 | 50 | 2  | 100 | 552 |

#### ・借受

| 利用期間   | 利用者       | 所属        | 標本名            | 目的 | 点数  |
|--------|-----------|-----------|----------------|----|-----|
| 6. 18  | 矢部 淳      | 国立科学博物館   | 植物化石標本         | 研究 | 300 |
| 3. 10- | NHK 札幌放送局 | NHK 札幌放送局 | デイノスクス、タルボサウルス | 展示 | 2   |

#### ・寄贈標本

なし

#### ・新規整理登録標本

| 標本名       | 整理・登録 | 点数  |
|-----------|-------|-----|
| 無脊椎動物化石標本 | 整理    | 300 |

## <岩石鉱物鉱石標本利用記録>（担当：北野一平 助教）

総合博物館には、1930（昭和5）年に理学部旧地質学鉱物学教室が開設されて以降、歴代の教官・学生により国内外より収集・蓄積されてきた岩石・鉱物・鉱石標本が約18万点収蔵されている。現在ではほとんど入手不可能な千島列島や北朝鮮産の貴重な岩石・鉱物・鉱石標本をはじめ、北海道ではライマン標本に次いで二番目に古いとされる札幌農学校卒業生等により収集された地質標本コレクション、国内の全ての産地から採集され全試料の化学分析データも揃った黒曜石標本、北海道産新鉱物や北海道内の既に閉山された各鉱山産の鉱石・変質母岩類も収蔵されている。今年度は北大構内イベントでのハンズオン展示や理学祭での展示に利用された。また、研究または展示目的での標本庫の標本調査があり、2件の標本寄贈があった。ボランティアを中心とした標本整理作業を継続しており、収蔵標本のみならず展示中の標本についても情報照合をはじめ、写真撮影、サイズ測定を行い、標本excelデータを更新して標本情報のデータベース化を着実に進めている。岩石鉱物標本の3Dスキャンにも着手し、白色光（LED）下だけでなく紫外線光下での3Dスキャンに成功している。

### ・目的別点数のまとめ

| 研究 | 教育 | 展示 | その他 | 総数 |
|----|----|----|-----|----|
| 29 | 1  | 11 |     | 41 |

### ・標本庫

| 利用期間 | 利用者   | 所属                       | 標本名              | 目的 | 点数 |
|------|-------|--------------------------|------------------|----|----|
| 9.5  | 星 蒼空  | 工学院 共同資源工学専攻<br>環境地質学研究室 | 下川鉱床の鉱石と関連資料     | 研究 | 16 |
| 9.27 | 星 蒼空  | 工学院 共同資源工学専攻<br>環境地質学研究室 | 下川鉱床の鉱石          | 研究 | 9  |
| 2.25 | 堀切 悠太 | 北海道大学理学部地球惑星<br>科学科      | 自然金、金鉱石、トパーズ、ベリル | 展示 | 4  |

### ・借受

| 利用期間      | 利用者    | 所属                  | 標本名                             | 目的 | 点数 |
|-----------|--------|---------------------|---------------------------------|----|----|
| 6.8 ～ 6.9 | 田中 政成  | 北海道大学理学部地球惑星<br>科学科 | 北海道石など                          | 展示 | 4  |
| 6.7 ～ 6.9 | 櫻井 奎志郎 | 北海道大学理学部地球惑星<br>科学科 | 花崗岩、閃緑岩、はんれい岩、流紋岩、安山岩、玄武岩、かんらん岩 | 展示 | 7  |
| 7.26      | 田部 豊   | 北海道大学大学院工学研究<br>院   | 石炭                              | 教育 | 1  |

・寄贈標本

| 標本名                | 寄贈者名  | 点数 |
|--------------------|-------|----|
| スズ石                | 池田 攻  | 1  |
| Ribbeck 隕石 Aubrite | 和田 英之 | 1  |

・新規整理登録標本

| 標本名                  | 整理・登録    | 点数   |
|----------------------|----------|------|
| ベトナム・ダイロックなど         | 登録       | 130  |
| 神居古潭変成帯              | 登録       | 2    |
| 日高変成帯                | 登録       | 4    |
| 栃木板荷                 | 登録       | 17   |
| 由井標本および野帳            | 整理・登録    | 1478 |
| 常設展示室収蔵および展示<br>岩石標本 | 整理・データ更新 | 325  |

・利用に基づく報文

なし

## <考古学標本利用記録>（担当：江田真毅 教授）

総合博物館の考古学標本は主に文学部附属北方文化研究施設が 1960～1970 年代に発掘した道北地域のオホーツク文化期の資料群である。今年度は、香深井 1 遺跡（礼文町）から出土した鉄器およびモヨロ貝塚（網走市）出土の土器の調査が各1件あったに留まり、例年に比べて外部からの資料調査が少なかった。一方、日本学術振興会の外国人特別研究員として受け入れたYouri van den Hurk氏が香深井1遺跡出土の鯨骨を形態学および分子生物学的に調査した。また資料部研究員の協力のもと目梨泊遺跡（枝幸町）の資料の整理を進めた。香深井1遺跡の出土資料の主要なものはInnovate MUSEUM 事業で作成したデジタルデータベース「みんなの博物館」で検索が可能な状態を維持している。

・目的別点数のまとめ

| 研究 | 教育 | 展示 | 総数 |
|----|----|----|----|
| 15 | 0  | 0  | 15 |

・標本庫（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である）

| 利用期間  | 利用者               | 所属     | 標本名              | 目的 | 点数 |
|-------|-------------------|--------|------------------|----|----|
| 10.24 | 木山 克彦<br>（ほか学生1名） | 東北学院大学 | 香深井1遺跡、目梨泊遺跡の金属器 | 研究 | 14 |

|           |                                  |                       |                             |    |   |
|-----------|----------------------------------|-----------------------|-----------------------------|----|---|
| 11.1      | 中村 知恵                            | 三角山小学校家庭教育学級SANKAKUの会 | 香深井1遺跡出土石器・骨角器など（バックヤードツアー） | 教育 |   |
| 11.15     | 内山 幸子<br>（ほか教職員<br>2名、学生10<br>名） | 東海大学学芸員課程             | 香深井1遺跡出土石器・骨角器など（バックヤードツアー） | 教育 |   |
| 2.21-3.31 | 中澤 祐一                            | 北海道大学大学院医学研究院         | モヨロ貝塚出土オホーツク土器              | 研究 | 1 |

・借受  
なし

・寄贈標本  
なし

・新規整理登録標本

| 標本名            | 整理・登録 | 点数 |
|----------------|-------|----|
| 香深井 1 遺跡出土の海獣骨 | 整理    |    |
| 目梨泊遺跡出土資料      | 整理    |    |

・利用に基づく報文  
なし

### <脊椎動物標本利用記録>（担当：江田真毅 教授）

総合博物館に収蔵されている脊椎動物標本の主体は獣医学部や歯学部解剖学教室において主に 1960 年代～1980年代に収集された資料群である。エゾシカを中心とした全国のシカ類、全道のキタキツネ、動物園で飼育されていたキリンやライオン、カバなど貴重な標本が収蔵されている。また近年は北大獣医学部や円山動物園、水産資源研究所などと連携して動物遺体の提供を受け、考古（骨）ボランティアの協力のもと骨、皮・羽毛、組織、DNAの4つの標本作製している。今年は、遺跡出土動物骨の同定のための骨標本利用や、鳥類の生態調査への利用を目的とした剥製の貸出、円山動物園で開催された企画展「海鳥展」での展示のための海鳥の剥製や骨標本の貸出、CT撮影のための骨標本貸出、講義やイベントなどのための骨標本や剥製の貸出があった。また収蔵閲覧室や作業室はバックヤードツアーでも利用された。さらに、考古（骨）ボランティアが主体となって一推しの標本を紹介する「ホネボラ作 推し標本展」を3月25日～4月13日の会期で開催し、多数の標本を展示した。

・ 目的別点数のまとめ

| 研究  | 教育 | 展示 | 総数  |
|-----|----|----|-----|
| 178 | 88 | 51 | 317 |

・ 標本庫（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である）

| 利用期間        | 利用者                              | 所属                                 | 標本名                                             | 目的 | 点数 |
|-------------|----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------------------|----|----|
| 5.1-5.2     | 石川 弘樹                            | 東京大学総合研究博物館                        | 骨標本（ヤマドリ、キジ等）                                   | 研究 | 23 |
| 7.16-7.20   | 田中 公教                            | 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所                  | 骨標本（ウ科、カモ科）                                     | 研究 | 13 |
| 11.15       | 内山 幸子<br>（ほか教職員<br>2名、学生10<br>名） | 東海大学学芸員課程                          | 骨標本、剥製など（バックヤードツアー）                             | 教育 |    |
| 10.28-10.30 | 石丸 恵利子                           | 広島大学総合博物館                          | 鳥類骨標本                                           | 研究 | 30 |
| 11.1        | 中村 知恵                            | 三角山小学校家庭教育学級SANKAKUの会              | 骨標本、剥製など                                        | 教育 |    |
| 12.12       | 渡辺 双葉                            | 北海道教育庁 生涯学習推進局<br>文化財・博物館課 文化財保護主事 | タヌキ（エゾタヌキ）、キツネ（キタキツネ）、ウサギ類、ミズナギドリ類、ウミウ、カモメ類、カモ類 | 研究 | 15 |
| 1.7         | 寺田 千里                            | 合同会社エゾリンク                          | キツネ、タヌキ、エゾシカ、オットセイ                              | 教育 | 8  |
| 1.14        | 寺田 千里                            | 合同会社エゾリンク                          | キツネ、タヌキ、エゾシカ、オットセイ                              | 教育 | 8  |
| 1.22-1.24   | 高橋 鵬成                            | 礼文町教育委員会                           | ヒグマ、キタキツネ、トド、カワウ他                               | 研究 | 17 |
| 2.6         | 寺田 千里                            | 合同会社エゾリンク                          | トド、ヒグマ、ヤギ                                       | 教育 | 8  |
| 2.21        | 寺田 千里                            | 合同会社エゾリンク                          | トド、ヒグマ、キツネ、シカ、サル                                | 教育 | 8  |

・借受

| 利用期間      | 利用者    | 所属                     | 標本名                         | 目的 | 点数 |
|-----------|--------|------------------------|-----------------------------|----|----|
| 4.1.-10.9 | 増田 隆一  | 北海道大学大学院理学研究院          | 哺乳類頭骨標本                     | 教育 | 56 |
| 4.1.-3.31 | 奥田 ゆう  | 岡山理科大学                 | 鳥類標本（コアホウドリ）                | 研究 | 3  |
| 5.1.-3.31 | 板倉 来衣人 | 帯広畜産大学                 | 頭骨標本（ヒグマ）                   | 研究 | 17 |
| 4.1-3.31  | 高橋鵬成   | 礼文町教育委員会               | 骨標本（クロアシアホウドリ）              | 研究 | 1  |
| 4.1-5.1   | 久井貴世   | 北海道大学大学院文学研究院          | ツル科骨標本                      | 研究 | 5  |
| 5.14-9.30 | 青木 大輔  | 森林総合研究所                | 剥製（カッコウ、ツツドリなど）             | 研究 | 8  |
| 5.30-3.31 | 吉田 純輝  | 福島県立博物館                | 鳥類標本（液浸）                    | 研究 | 33 |
| 7.12-7.13 | 大藪 隼平  | 北海道大学理学院               | 骨標本                         | 展示 | 3  |
| 7.12-7.13 | 工藤 智美  | 北海道大学総合博物館 技術職員        | ヒグマ剥製ほか                     | 展示 | 11 |
| 7.12-7.13 | 謝 倩氷   | 北海道大学総合博物館 考古(骨)ボランティア | 鳥類耳小骨コレクションほか               | 展示 | 31 |
| 7.16-7.20 | 田中 公教  | 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所      | 骨標本（ウ科、カモ科）                 | 研究 | 13 |
| 1.9-2.14  | 柴田 千賀子 | 札幌市円山動物園               | 剥製（コアホウドリ等）、骨標本（ハシブトウミガラス等） | 展示 | 6  |

・寄贈標本

なし

・新規整理登録標本

| 標本名          | 整理・登録 | 点数  |
|--------------|-------|-----|
| 哺乳類標本        | 登録    | 794 |
| 鳥類標本         | 登録    | 259 |
| 爬虫類・両生類・魚類標本 | 登録    | 29  |

・利用に基づく報文（6 報）

1. 諏訪 元・佐宗 亜衣子・佐々木 智彦・中村 凱・遠藤 秀紀・松浦 秀治 2024 「「牛川人骨」の部位・動物種別の特定と学史略考」 *Anthropological Science (Japanese Series)*, 132, 71-85.  
<https://doi.org/10.1537/asj.240917>
2. 樋泉岳二・江田真毅 2025. 「岩手県大船渡市大洞貝塚の考古学的研究 第5章第6節 動物遺体と共伴遺物」 *東京大学総合研究博物館研究報告*, 50, 218-230 pp.
3. 江田真毅2025「自然史の展示2：生物」 鶴見英成編『改訂新版 博物館展示論』放送大学教育振興会, 213-228 pp.
4. 江田真毅・許開軒2024「動物遺体 鳥類」東京都埋蔵文化財センター編『元浅草遺跡』, 283-285 pp.
5. 江田真毅2024「博物館発！鳥のお宝ツアー 北海道大学総合博物館」 *Birder* 38, 66-67 pp.
6. 山崎健・高橋啓一・新美倫子・川田伸一郎・山口欧志・江田真毅・米田穰2025「正倉院宝物特別調査 動物由来素材（牙甲角）調査報告」 *正倉院紀要*, 47, 3-95pp.

## ＜無脊椎動物標本利用記録＞（担当：柁原宏 教授・資料部研究員）

北大総合博物館に収蔵されている無脊椎動物コレクションはその由来に基づいて大きく3つのカテゴリーに分けられる。1つ目は旧理学部動物学教室収蔵標本に収蔵されていたもの、2つ目は理学部・理学院・理学研究院・多様性生物学講座Ⅰのメンバーが研究に用いた証拠標本、3つ目は学内外の研究者からの寄贈・供託によるものである。2016年の耐震改修以降、主に第一カテゴリー（旧理学部動物学教室収蔵）と第三カテゴリー（寄贈・供託）の標本が3階南棟のS324（液浸標本）とS327（乾燥標本）に収蔵されているが、それらの多くは移転の際に段ボール箱に梱包された状態のまま棚におかれた状態であったが、荷ほどきの作業は令和4年度にほぼ完了した。第二カテゴリーの標本の多くは理学部5号館5階の多様性生物学講座Ⅰの研究室で保管されている。これらには Invertebrate Collection of the Hokkaido University Museum (ICHUM)の通し番号を付して管理している。

2024年度（令和6年度）は前年度に引き続き高木麻理さん（技術補助員）に週1回10時～17時勤務していただき、萩谷盛雄氏寄贈の多岐腸類（扁形動物門）コレクション（第三カテゴリー）のラベル作成・データベース登録作業に従事して頂いた結果、コレクション全体にラベル貼付が完了した。

第二カテゴリーの標本は令和6年度に153件増加した。過去にICHUMに供託された標本に基づいて、令和6年度には以下16報の論文が公表されている。

・利用に基づく報文

1. Abato JC, Chernyshev A, Hookabe N, Tsuyuki A, Kaushik G, Kajihara H. 2024. New *Oerstedia* species from Northwest Pacific delimiting the polymorphic congeners of the genus *Oerstedia* Quatrefages, 1864 (Nemertea, Hoplonemertea) and descriptions of three new species from the Northwest Pacific. *Frontiers in Ecology and Evolution* 16: 1356316.
2. Hasegawa N, Kajihara H. 2024. Graveyards of giant pandas at the bottom of the sea? A strange-looking new species of colonial ascidians in the genus *Clavelina* (Tunicata: Ascidiacea). *Species Diversity* 29: 53–64.
3. Ishiyama H, Oya Y, Wilson NG, Kajihara H. 2024. Testing the species status of the chromodorid

- nudibranch *Goniobranchus aureopurpureus* (Mollusca: Gastropoda). *Species Diversity* 29: 141–150.
4. Kajihara H, Abato J, Matsushita M. 2024b. New locality for the deep-sea acorn worm *Quatuoralisia malakhovi* (Hemichordata: Enteropneusta). *Russian Journal of Marine Biology* 49: 522–527.
  5. Kajihara H, Ganaha I, Okuno K, Yamada N, Kohtsuka H. 2024c. First Record of *Parahubrechtia rayi* (Nemertea: Palaeonemertea) from Japan. *Species Diversity* 29: 235–237.
  6. Kakui K. 2024b. A new parasitic barnacle (Crustacea, Cirripedia, Rhizocephala, Mycetomorpha) from the abyssal zone in the northwestern Pacific. *Zoosystematics and Evolution* 100: 385–390.
  7. Kita Y, Nitta M, Kajihara H. 2024. Morphological and molecular characteristics of two species of the genus *Rhadinorhynchus* (Palaeacanthocephala: Echinorhynchida) from the western Pacific. *Species Diversity* 29: 171–178.
  8. Kita Y, Nitta M, Kajihara H. 2024. Molecular systematics and type-material-based redescription of *Metarhadinorhynchus lateolabracis*, with taxonomic revisions of *Metarhadinorhynchus*, *Indorhynchus*, and *Neotegorhynchus* (Acanthocephala: Palaeacanthocephala). *Acta Parasitologica* 69: 1411–1425.
  9. Kita Y, Nitta M, Kajihara H. 2024. Systematics of *Pseudocavisoma* (Acanthocephala: Echinorhynchida): assessment of familial affiliation, establishment of a new species, and complementary redescription of the type species based on syntypes. *Systematic Parasitology* 101: 73.
  10. Kita Y, Waki T, Kajihara H. 2024. Cystacanths of *Bolbosoma* (Acanthocephala: Polymorphidae) from six species of marine fish around Japan, with molecular information. *Species Diversity* 29: 317–325.
  11. Matsushima Y, Kakui K. 2024. *Apseudes ranma* sp. nov. (Tanaidacea: Apseudidae) found in a public aquarium, with notes on phylogeny and a presumptive stridulatory organ. *Bulletin of Marine Science* 100: 451–469.
  12. Matsushita H, Kakui K. 2024. Two new *Rhynchothorax* sea spiders from Japan (Pycnogonida, Rhynchothoracidae). *Spixiana* 47: 15–28.
  13. Munakata M, Tanaka H, Kakui K. 2024. A new genus and species of the spring-endemic Ostracoda (Cypricerinae, Cyprididae) and its genetic population structure among rheocrenic springs in Japan. *Zoological Studies* 63: 51.
  14. Shiraki S, Kakui K. 2024. Description of a new *Cruranthura* species from the Miyako Islands, Japan, with its DNA barcode (Isopoda: Anthuroidea: Paranthuridae). *Species Diversity* 29: 65–72.
  15. Shiraki S, Kakui K. 2024. Isopods on isopods: integrative taxonomy of Cabiropidae (Isopoda: Epicaridea: Cryptoniscoidea) parasitic on anthuroid isopods, with descriptions of a new genus and three new species from Japan. *Invertebrate Systematics* 38: IS24013.
  16. Shiraki S, Yoshida R, Kakui K. 2024. *Paranthura oriens* sp. nov. (Isopoda: Anthuroidea: Paranthuridae) from Tateyama, Chiba, Japan. *Plankton and Benthos Research* 19: 233–243.

- ・令和6年度は、教員の研究成果が6回に渡りプレスリリースされた。

| 著 者 発 表 ( 著 者 氏 名 ) |                     |                  |                             |
|---------------------|---------------------|------------------|-----------------------------|
| 月/日                 | 担当課(室)係名            | TEL(代表)          | 発表者名                        |
| 7/26(金)             | 独立人と自然の博物館<br>生涯学習課 | 079<br>(059)2001 | 事業推進部長<br>八木 剛<br>(課長 佐野知康) |

丹波篠山市産の恐竜化石の記載論文の出版および臨時展示の実施について

- [illegible]

**PRESS RELEASE** 2024/9/17



東北地方沖からアオメエソ属 3 種の稚魚を発見  
～メヒカリ類の生態解明への貢献に期待～

- ポイント**
- ・東北地方沖太平洋から獲れたメヒカリ類（アナメソ属）の稚魚を発見。
  - ・海底に墜底した稚魚の急速な形態的変化の過程を解明。
  - ・メヒカリ類の初期生活史解明の進展に期待。

[illegible]

373

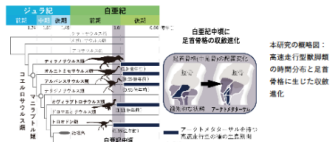
**PRESS RELEASE** 2025/1/25



## 恐竜の走行能力の進化の解明

～白亜紀は恐竜高速化の時代だった～

- ・恐竜出現初期から絶滅以前まで幅広い年代の獣脚類で、後肢骨格から走行能力の進化傾向を解析。
- ・コエルロサウルス類の一群で、走行に適した後肢比率・束状の足首骨格の収斂進化が進行。
- ・白垩紀中頃に高速走行型のコエルロサウルス類が同時多発的に進化したことを示唆。

[illegible]

1/6

**PRESS RELEASE** 2025/3/13

国内で約半世紀ぶりに確認されたモウコムカシヨモギ

—除外来種が沿岸直の海岸を埋め尽くす—

- ポイント**
- ・セウコムカシコメギ(キク科)は、国内では室蘭市で一度だけ分布記録のある推定外来種。
  - ・本種の生育を、約半世紀ぶりに厚岸町と石狩市の海岸付近で確認。
  - ・厚岸町では海岸を埋め尽くすように繁茂。今後、分布が拡大する可能性があり、注意が必要。

[illegible]

37

**PRESS RELEASE** 2024/10/23



サハリンウシノケグサとジョウテンウシノケグサの発見  
—豊原圃の観察から新たに国内から見つかったウシノケグサ属2種—

ポイント

- ・イネ科ウシノケグサ属の葉断面を観察し、これまで国内で記録されていなかった2種を発見。
- ・サハリノウシノケグサ（新種）は、北海道と本州中部地方の高山に分布。
- ・ジョウテンウシノケグサ（新種）は、札幌と知床から発見され、新和名は定山満天狗岳に由来。

**概要**

[illegible]発見されたサハリンウシノケグサ (左) とジ<sub>a</sub>ウテンウシノケグサ (右)

17

**PRESS RELEASE** 2025/3/26



ティラノサウルスの様に手指が2本しかない新種の恐竜発見

附錄一：以上各學系畢業生就業去向

- ポイント**
- ・特異な二本指のテリジノサウルス類「デュオニクス・ツクトバアタリ」の新種を命名。
  - ・中型以上の獣脚類では世界で初めて三次元的に保存された角質の爪を確認し、その機能が明らかに。
  - ・手が三本指である一般的な獣脚類恐竜の中で、恐竜の手指の減少が5回にわたって収斂<sup>収斂</sup>進化。

[illegible]

- ・坪田敏男館長が第78回北海道新聞文化賞を受賞

坪田館長はヒグマの生態と生理・生殖に関する研究を40年以上続け、人里にクマが出没するアーバンベ  
問題が道内外で深刻化するなか、野生動物と人間社会との共生に向けた提言を続けている。このことが  
北海道の発展に顕著な功績と認められ、第78回北海道新聞文化賞の学術部門において受賞した。

- ・総合博物館が2024デジタルアーカイブ産業賞を受賞

総合博物館が北海道立北方民族博物館、むかわ町穂別博物館、札幌市博物館活動センター、札幌円山動物園、群馬県立自然史博物館、北九州市立自然史・歴史博物館と協力し運営する非公開標本デジタルデータベース『みんなの博物館』が評価され、2024デジタルアーカイブ産業賞を受賞した。

## 大原昌宏 教授

### 研究内容の概要

昆虫体系学。(1) 海浜性甲虫群集の分類と生物地理学。東アジアと北米西海岸の海浜性甲虫(エンマムシ科、ガムシ科、ゴミムシダマシ科、ゾウムシ科など)の分類学的研究を行い、アジア・北米間の海浜性甲虫類の群集の種構成差異を明らかにし、両地域間の生物地理学的な分布の成り立ちと種間・属間系統との関係を検討した。科研費(分担)に関わる研究。(2) 北方圏のエンマムシ、陸生ガムシ(昆虫綱、鞘翅目)の分類学・生物地理学的研究。日本から千島、樺太、朝鮮半島にかけて、エンマムシ科(Histeridae)と陸生のガムシ科(Hydrophilidae)について分布、種構成など分類学的・生物地理学的基礎情報の収集を目的とした。特に陸生ガムシは日本北部における先行研究がないため、多くの新知見が得られた。(3) タイプ標本データベース作成。昆虫綱鞘翅目のタイプ標本の画像、原記載データ、ラベルデータに関するデータベースの構築を行った。(4) 博物館におけるバイオミメティクス研究。動植物の持つ能力や形・機能などの特性を把握し、そこからヒントを得て人工的に設計・合成・製造する「生物規範工学」と協力し、博物館に収蔵される膨大な生物標本の利活用を探る先駆的なデータベース開発を行った。

### 原著論文

1. dela Cruz, I. N., S. Hartini, D. Dwibadra and M. Ôhara, 2024. Contribution to the knowledge of the genus *Atholus* (Coleoptera: Histeridae: Histerinae: Histerini) from the Indonesian Archipelago. *Species Diversity*, 29: 119–139. doi.org/10.12782/specdiv 29.119
2. Kikuchi, T. and M. Ôhara, 2024. Taxonomic Note of *Sphaerites glabratus* (Fabricius, 1792) (Coleoptera, Histeroidea, Sphaeritidae) from Japan. *Japanese Journal of Entomology* [昆虫(ニューシリーズ)], 27 (1): 21–31.
3. 大原昌宏・田作勇人・柏崎 昭・中岡利泰・高木大稔・小川直記・菊地波輝・山本ひとみ, 2024. 北海道えりも町豊似湖周辺ほか昆虫調査報告. VIII. 甲虫類6. えりも研究, (21): 1–4.
4. Shimonaka, J., M. Ôhara, and Y. Minoshima, 2024. Distributional records of *Hydrobius fuscipes* (Linnaeus, 1758) from Hokkaido, Japan, with notes of Japanese species of *Hydrobius* (Coleoptera, Hydrophilidae). *Elytra*, (n. ser.), 14 (1): 75–84.
5. Shimonaka, J., Y. Tasaku and M. Ôhara, 2024. Records of *Enocharus haroldi* (Sharp, 1884) and *Laccobius fragilis* Nakane, 1966 (Coleoptera, Hydrophilidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, (n. ser.), 14 (2): 214–216.
6. dela Cruz, I. N., X.-F. Li and M. Ôhara, 2024. Some of the histerini beetles collected from cow dung in Liaoning Province, China, with a new record of *Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus* (Coleoptera, Histeridae). *Elytra*, (n. ser.), 14 (2): 247–248.
7. 大原昌宏・小嶋研二, 2024. クマゲラの巣立ち後巣内から得られた甲虫4種. *Sayabane*, (n. ser.), (56): 56.

#### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 大原昌宏, 2024. 風力発電の生物環境への影響, 特に昆虫について. *Biomimetica*, 7: 9–11
2. 大原昌宏, 2024. ぶらり訪問こんにちは. 北海道大学総合博物館 博物館は将来の研究材料の宝庫 標本分類学との連携に期待. *ペストコントロール*, (10): 31–33.

#### 学会発表

1. 植野 晴子・松島肇・大越陽・菊地那樹・志津木真理子・大原昌宏・佐々木大樹・佐藤慎也・船橋秀樹・中村洸太, 2024. 海水浴場における砂丘復元前後の生物群集の変化. 日本生態学会 [横浜国立大学]. 2024年3月16日.
2. 大原昌宏, 2024. 朝鮮半島産エンマムシ科甲虫の分類学的再検討と日本産との比較. 日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会 合同大会 [仙台国際センター（仙台市）]. 2024年3月29日.
3. dela Cruz, I. N. & M. Ôhara, 2024. PO405. The histerid beetle *Atholus* Thomson, 1859 (Coleoptera, Histeridae) in the Oriental Region and their distribution in the Indo-Australian Archipelago (IAA). ICE2024Kyoto: XXVII International Congress of Entomology. At the Kyoto International Conference Center [Kyoto, Japan]. 27th August 2024. [Poster]
4. Nose, H., N. Kobayashi & M. Ôhara, 2024. PO977. Taxonomic study of intertidal rock-dwelling genus *Aegialites* (Coleoptera: Salpingidae: Aegialitinae) in Japan. ICE2024Kyoto: XXVII International Congress of Entomology. At the Kyoto International Conference Center [Kyoto, Japan]. 30th August 2024. [Poster].
5. Ôhara, M. & D. Sakuma, 2024. Pre- & Post Disaster Management of Natural History Collections and the Role of Museums. SYM27, at the SPNHC & TDWG Joint Conference. At the Okinawa Convention Center [Ginowan, Okinawa, Japan]. 3rd September 2024.
6. 下中淳ノ介・蓑島悠介・大原昌宏, 2024. 北海道におけるキタスジヒメガムシ（鞘翅目ガムシ科）の分布記録と日本産スジヒメガムシ属についての考察. 日本甲虫学会第14回大会・日本昆虫分類学会第27回大会. [東京都立大学南大沢キャンパス]. 2024年11月17日.

#### 一般講演

1. 大原昌宏, 2024. 海浜性甲虫の分類と生態. 2023年度第11回土曜市民セミナー [北海道大学総合博物館知の交流ホール]. 2024年2月10日. [招待講演].
2. 大原昌宏, 2024. 「昆虫採集講座」. 令和5年度 第2回オープンサイエンスパーク 「ミクロな世界への冒険 昆虫採集と電子顕微鏡体験」. 主催 公立千歳科学技術大学地域連携センター. [公立千歳科学技術大学]. 2023年8月9日. [招待講演].
3. 大原昌宏, 2024. 自然環境調査からみえてくる小樽の自然. 連続講座 北海道の自然・歴史が形作った小樽を考える. [小樽芸術村 (旧三井銀行小樽支店)]. 2024年10月19日[招待講演].
4. 大原昌宏, 2024. 札幌農学校から現在までの昆虫研究. 第70回時計台サロン. [札幌市時計台サロン]. 2024年10月23日[招待講演].

#### 外部資金

1. 【分担】大原昌宏：科学研究費補助金・基盤研究(C)「防潮堤建設が及ぼす海浜性昆虫の種構成及び資源利用の変化」2021年1,430千円、2022年1,430円（直接経費1,100千円、間接経費330千円）、2023年1,430円、令和3年—令和6年4,290千円（直接3,300千円、間接経費990千円）代表者：小林憲生（埼玉県立大学・教授）（2021-2024）
2. 【分担】大原昌宏：共創の場形成支援プログラム 地域共創分野「生物多様性・生態系と食料生産・感染症対策のトレードオフを解消するための昆虫科学共創拠点」代表者：日下部宜宏（COI-NEXT九州大学昆虫科学・新産業創生研究センター センター長）

#### 学会活動

1. 一般社団法人日本昆虫学会：代議員；日本産昆虫カタログ編纂委員会委員（2016—継続）
2. 日本甲虫学会：副会長（2023-継続）；
3. 日本動物分類学会：会員（2000-継続）
4. 北海道自然史研究会：会長（2017—継続）

#### 社会貢献

1. 国土交通省 河川水辺の国勢調査（天塩川下流・留萌川及び留萌ダム） アドバイザー
2. 国土交通省 河川水辺の国勢調査（天塩川上流及び石狩川上流） アドバイザー
3. 国土交通省 幾春別川ダム、モニタリング計画 アドバイザー
4. 国立科学博物館 地球規模生物多様性情報機構日本ノード運営委員会 委員
5. 国立科学博物館 外部評価委員会 委員
6. 北海道環境影響評価審議会 委員
7. 北海道希少野生動植物保護対策検討有識者会議昆虫専門部会 構成員
8. 小樽市博物館協議会 委員長
9. 小樽市文化財審議会 委員

10. 北海道新聞社野生生物基金 評議員・助成金審査員

11. 前田一步園財団 助成金審査員

## 湯浅万紀子 教授

### 研究内容の概要

博物館教育学。（１）ミュージアム体験の長期的インパクトを検証する調査研究。日本ではまだ体系的に実施されていないミュージアム体験の長期的インパクトの検証に取り組み、人々の記憶に残るミュージアム体験とその人々とミュージアムとの関わりの変容を調査し、続く世代へと記憶をつなぐためのミュージアム活動の展開方法を研究している。認知面での学習効果にとどまらないミュージアム体験の多様な意味を明らかにすると同時に、ミュージアム活動の意義を検証し、ミュージアム資源を生かした活動への提案を導くための調査研究でもある。（２）大学博物館における複合教育プログラムの評価に関する調査研究。大学博物館は社会において今後どのような役割を果たしていくべきかを探るために、大学博物館独自のリソースを生かした活動として「複合教育プログラム」に注目した研究を行っている。複合教育プログラムとは、博物館の活動の様々な局面に学生を関与させて教育し、その学生が博物館活動の担い手として来館者とコミュニケーションすることにより更に学習を深化させ、学生と来館者双方に教育的な意味を持つ実践的な教育プログラムである。大学博物館ならではの学生教育とは何かを探り、更にその学生教育の意義をいかに評価すればよいかを研究している。（３）展示評価に関する調査研究。展示の総括的評価として、主として展示がいかに来館者に受け止められたかについて質的な調査を実施して評価するための研究を行っている。調査手法の検討、質問紙調査の自由記述回答や面接調査のデータの分析方法について研究し、メディア報道との関わり、展示解説を受けた人、展示解説を担った人へのインパクトなどを調査し、展示を多角的に検証する研究を行っている。更に、異なる展示にフィードバックできる指摘を求めて、評価方法を検討している。同時に、来館者プロフィールを継続的に分析することで、博物館の広報活動への示唆を導く。（４）博物館評価に関する調査研究。前項の展示評価を含めた包括的な博物館評価として、各館独自の使命と設立経緯、社会状況を踏まえた上で、博物館の組織体制、運営形態などを含めた活動のあらゆる局面を評価する手法、特に活動の質を評価するための手法を研究している。（５）新しいミュージアム像に関する調査研究。博物館の新しい姿、活動を導くために、運営体制の見直し、コレクションや人的資源の流動化、来館者・非来館者との関わり、異分野との協働など、博物館と博物館を取り囲む社会の文化資源を新しい視点で再組織化する研究を行っている。

### 原著論文

1. 湯浅万紀子, モノ・コト・人を結ぶミュージアム 北海道大学総合博物館. 月刊社会教育, 822 : 54-57  
【招待論文】

### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 湯浅万紀子, 2024. 2023 年度卒論ポスター発表会, 北海道大学総合博物館ニュース, 48:9
2. 湯浅万紀子, 2025. 2023 年度学生企画ミュージアムグッズ, 同上, 49:7-8
3. 湯浅万紀子, 2025. 博物館実習, 同上, 49: 9
4. 湯浅万紀子, 2025. 2023年度後期 ミュージアムマイスター認定式, 同上, 49:10
5. 湯浅万紀子, 2025. 博物館における初任事務職員実地研修, 同上, 49:11

#### 学会発表

1. 湯浅万紀子, 2024, ミュージアム体験の長期記憶から探るミュージアムの社会的役割, 秋田公立美術大学, 2024年 11 月 18 日. 【招待講演】
2. 湯浅万紀子, 2024, ミュージアム体験の長期記憶を探る, 創造表現学会主催講演会 知求儀, 愛知淑徳大学, 2024 年 12 月 7 日. 【招待講演】

#### 博物館教育研究活動

1. 2023年度学生企画グッズ指導（2023年度博物館コミュニケーション特論：ミュージアムグッズの開発と評価）、2024年度ミュージアムショップで販売開始。「北海道大学総合博物館オリジナルガチャ：アクリルキーホルダー、フォトマグネット、ラバーバンド」、「クリアブックマーカー（4連しおり）」「北海道大学総合博物館の黒千石先生」（おかきのパッケージ）「ベケース ロールケーキ」
2. 2024年度学生企画グッズ指導（2024年度博物館コミュニケーション特論：ミュージアムグッズの開発と評価）
3. 2024年度卒論ポスター発表会 発表・運営指導
4. 博物館における北海道大学初任事務職員実地研修 講義、見学案内、研修時のアテンド

#### 外部資金

1. 日本学術振興会科学研究費 基盤（C）「企業博物館の多様なステークホルダーにおける博物館体験の長期記憶研究に関する研究」令和 1～6 年度, 研究代表者
2. 日本学術振興会科学研究費 基盤（C）「高度な理解促進を目指す獣医学臨床手技映像教材の開発」令和 1～6 年度, 藤田良治（研究代表者）研究分担者
3. 日本学術振興会科学研究費 基盤研究（C）「VR 技術を活用した森林教育プログラムの開発」令和 5～8 年度, 藤田良治（研究代表者）研究分担者

#### 学会活動

1. 日本ミュージアムマネジメント学会 会員
2. 日本科学教育学会 会員
3. AAM 会員

## 社会貢献

### メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. プレスリリース「学生企画オリジナルミュージアムグッズ 2024年の新展開のお知らせ」10月22日
2. 「北海道大学総合博物館 授業から生まれた学生企画オリジナルミュージアムグッズのご紹介」北海道大学創基150周年記念サイト 10月30日
3. 「北海道大学総合博物館 2024年度卒論ポスター発表会開催」 北海道大学創基150周年記念サイト 3月1日・2日

## 小林快次 教授

### 研究内容の概要

古生物学。恐竜の進化や生態についての研究。カムイサウルスをはじめとする鳥脚類恐竜の進化、古生物地理学の見解から分布のパターンを解明、環境と進化の関係性など。さらに、鳥類を含む獣脚類の進化も研究している。獣脚類における食性の変化と骨格の進化の関連性を研究している。海外のフィールドは、主に米国アラスカ州、モンゴル・ゴビ砂漠地域、カナディアンローキー山脈西部、ウズベキスタンを中心に行なっている。これらのフィールド調査から、アジア大陸と北米大陸の恐竜の多様性比較、北極圏への生理的な適応手段などを研究している。

### 原著論文

1. Fiorillo, A. R., Kobayashi, Y. and McCarthy, P. J. 2024. Archaeornithipus from the mid-Cretaceous Yukon-Koyukuk Basin, west-central Alaska: an addition to the vertebrate biodiversity of the ancient high-latitudes. In (Louis H. Taylor, Robert G. Raynolds, and Spencer G. Lucas, eds.) Vertebrate Paleobiology: a tribute to Martin Lockley. **New Mexico Museum of Natural History and Science Bulletin** 95. 111-117.
2. Takasaki, R. and Kobayashi, Y. 2024. Anatomical description of neornithine stomach with implications on neornithine stomach morphology. **Journal of Anatomy** 245: 787-796. DOI: 10.1111/joa.14123
3. Kubota, K., Kobayashi, Y. and Ikeda, T. Early Cretaceous troodontid troodontid (Dinosauria: Theropoda) from the Ohyamashimo Formation of Japan reveals the early evolution of Troodontinae. **Scientific Reports** 14: 16392. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-66815-2>
4. Kubo, K. and Kobayashi, Y. 2025. Cursorial ecomorphology and temporal patterns in theropod dinosaur evolution during the mid-Cretaceous. **Royal Society Open Science** 12: 241178. <https://doi.org/10.1098/rsos.241178>
5. Kobayashi, Y., Zelenitsky D., Fiorillo, A. R., and Chinzorig, T. 2025. Didactyl therizinosaur with a preserved keratinous claw from the Late Cretaceous of Mongolia. **iScience** 112141. <https://doi.org/10.1016/j.isci.2025.112141>
6. Zhou, X., Ikegami, N., Pêgas, R. V., Yoshinaga, T., Sato, T., Mukunoki, T., Otani, J., and Kobayashi, Y. 2025. Reassessment of an azhdarchid pterosaur specimen from the Mifune Group, Upper Cretaceous of Japan, **Cretaceous Research** <https://doi.org/10.1016/j.cretres.2024.106046>.

### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 小林快次（監修）2024年7月「カムイサウルス=世紀の大発見物語=：「NHKスペシャル」「ダーウィンが来た！」取材ノートより」少年写真絵本
2. 小林快次（執筆）2024年6月「大人のための最先端理科 恐竜 最強恐竜の食の好みの変化」週刊ダイヤモンド、ダイヤモンド社。
3. 小林快次（執筆）2024年8月「大人のための最先端理科 恐竜 日本にも寝相のいい恐竜が？」週刊ダ

ダイヤモンド, ダイヤモンド社.

4. 小林快次(執筆) 2024 年 10 月「大人のための最先端理科 恐竜 竜脚類と獣脚類の共進化の謎」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
5. 小林快次(執筆) 2024 年 12 月「大人のための最先端理科 恐竜 赤ちゃん恐竜が語ること」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
6. 小林快次(執筆) 2025 年 3 月「大人のための最先端理科 恐竜 疾走する能力を獲得した恐竜たち」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.

#### 学会発表

1. Tanaka, M., Kobayashi, Y., Eda, M., Izumi, H., Kikuchi, H., and Sun, G. 2024. 演題「Comparative analysis of modern East Asian crocodylians through mass spectrometry of collagen proteins and application to ancient material」Society of Vertebrate Paleontology, Minneapolis, Minnesota, USA.
2. Fiorillo, A., Kobayashi, Y. and McCarthy, P. 2024. 演題「A rich record of dinosaur tracks from an unnamed Cretaceous rock unit along the Yukon River in west-central Alaska」Society of Vertebrate Paleontology, Minneapolis, Minnesota, USA.
3. Shimizu, S. and Kobayashi, Y. 2024. 演題「Insights into the diversification dynamics of Mesozoic dinosaurs」Society of Vertebrate Paleontology, Minneapolis, Minnesota, USA.
4. Lee, Y., Kim, T., Lee, T., Bevitt, J., Kobayashi, Y., Jacobs, L., Barsbold, R., Zelenitsky, D. K., and Paulina-Carabajal, A. 2024. 演題「Stomach contents of a juvenile Tarbosaurus (Dinosauria: Tyrannosaurinae)」Society of Vertebrate Paleontology, Minneapolis, Minnesota, USA.
5. Kobayashi, Y., Chinzorig, T., Fiorillo, A., Tsogtbaatar, K., and Barsbold, R. 2024. 演題「Functional morphology and adaptive implications of manual unguals in a therizinosaur with didactyl hand from southern Mongolia」Society of Vertebrate Paleontology, Minneapolis, Minnesota, USA.
6. Inaba, H., Chiba, K., Saneyoshi, M., Miyaji, T., Kawakami, A., Eda, M., Tanaka, M., Kobayashi, Y., Tsogtbaatar, K., and Tsujigiwa, H. 2024. 演題「Potential taxonomic implications of endogenous ancient proteins in vertebrate fossils from the Paleogene Ergilin Dzo Formation, Mongolia」Society of Vertebrate Paleontology, Minneapolis, Minnesota, USA.
7. Chinzorig, T., Kobayashi, Y., Napoli, J. G., Currie, P. J., Tsogtbaatar, K., Barsbold, R., and Zanno, L. E. 2024. 演題「New dromaeosaurid material from the Upper Cretaceous Nemegt Formation, Mongolia, reveals hidden diversity in the Nemegt Basin」Society of Vertebrate Paleontology, Minneapolis, Minnesota, USA.
8. Kubota, K., Kobayashi, Y. and Ikeda, T. 2024. 演題「Early Cretaceous troodontid troodontid (Dinosauria: Theropoda) from the Ohyamashimo Formation of Japan reveals the early evolution of Troodontinae」Society of Vertebrate Paleontology, Minneapolis, Minnesota, USA.
9. 久保孝太, 小林快次. 2024 「白亜 紀中頃の恐竜類・コエルロサウルス類における後肢形態の平行 進化と走行適応」日本古生物学会 2024 年年会(高知県・高知大学).
10. 宇津城遥平, 小林快次. 2025 「頸部形態から示唆される主竜類の S 字型頸部の進化」日本古生物学会

2024 年年会（高知県・高知大学）。

11. 大藪隼平, 小林快次. 2025 「モンゴル産鎧竜類 の体骨格化石に残された, 生痕のタイプ・サイズ・分布の傾向」日本古生物学会第 174 会例会（オンライン）。

#### 一般講演

1. 4 月 16 日（火）、UHB 大学「人類と恐竜の胃腸病」金沢大学
2. 5 月 11 日（土）、「最新恐竜研究 in 2024」NHK カルチャーセンター青山
3. 5 月 12 日（日）、「最新恐竜研究 in 2024」NHK カルチャーセンター青山
4. 6 月 1 日（土）、「最新恐竜研究 in 2024」NHK カルチャーセンター青山
5. 6 月 8 日（土）、「最新恐竜研究 in 2024」NHK カルチャーセンター青山
6. 6 月 9 日（日）、「最新恐竜研究 in 2024」NHK カルチャーセンター青山
7. 6 月 15 日（土）、「最新恐竜研究 in 2024」NHK カルチャーセンター大阪
8. 6 月 16 日（日）、「最新恐竜研究 in 2024」NHK カルチャーセンター名古屋
9. 6 月 22 日（土）、「最新恐竜研究 in 2024」パルシステム連合親子イベント、東京
10. 7 月 27 日（土）、「最新恐竜研究 in 2024」仙台科学館
11. 8 月 8 日（木）、「最新恐竜研究 in 2024」北海道新聞
12. 9 月 28 日（土）、「最新恐竜研究 in 2024」特別講演 北海道大学歯学部同窓会創立 50 周年記念
13. 11 月 2 日（土）、北海道大学 x STV SDG デー「最新恐竜研究 in 2024」北海道大学
14. 11 月 3 日（日）、「最新恐竜研究 in 2024」こども歴史文化館（福井県福井市）
15. 11 月 4 日（月）、「恐竜発掘最前線 + 龍にまつわる話」龍翔博物館（福井県坂井市）
16. 11 月 10 日（日）、「最新恐竜研究 in 2024」招待講演 国立自然史博物館誘致推進事業シンポジウム（沖縄県）
17. 11 月 14 日（金）、「最新恐竜研究 in 2024」第 41 期ヤマハ発動機技術会冬季講演会（静岡県磐田市）
18. 12 月 7 日（土）、「最新恐竜研究 in 2024」札幌市立中央図書館
19. 12 月 17 日（火）、「最新恐竜研究 in 2024」第 39 回信号処理シンポジウムでの特別招待講演
20. 1 月 23 日（木）、「最新恐竜研究 in 2024」北海道新聞釧路支局
21. 2 月 1 日（土）「北海道の恐竜」イオンレイクタウン（埼玉県）
22. 2 月 2 日（日）「北海道の恐竜」イオンレイクタウン（埼玉県）
23. 3 月 15 日（土）「最新恐竜研究 in 2024」御所浦恐竜の島博物館（熊本県）
24. 3 月 29 日（土）「最新恐竜研究 in 2024」御船町恐竜博物館（熊本県）

#### テレビ・ラジオ等出演

1. 5 月 5 日（日）、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
2. 11 月 24 日（日）、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
3. 12 月 1 日（日）、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
4. 12 月 31 日（火）、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
5. 1 月 16 日（日）、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演

6. 3月22日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談公開収録」出演
7. 3月30日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演

#### 学会活動

1. 日本古生物学会 評議員
2. Society of Vertebrate Paleontology 会員

#### 社会貢献

1. 旭川市科学館・サイバル 顧問
2. むかわ町穂別博物館 特別顧問
3. むかわ町穂別博物館 改修監修

#### メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. プレスリリース 7月26日「丹波篠山市産の恐竜化石の記載論文の出版および臨時展示の実施について」
2. プレスリリース 1月23日「恐竜の走行能力の進化の解明～白亜紀は恐竜高速化の時代だった～」
3. プレスリリース 3月26日「ティラノサウルスの様に手指が2本しかない新種の恐竜発見～獣脚類における指の減少進化を解明～」

## 江田真毅 教授

### 研究内容の概要

動物考古学。国内外の遺跡から出土した鳥類の骨を分析し、資料中に含まれる分類群の構成や解体・加工の痕跡などに基づいて各遺跡を形成した人々の活動域や狩猟技術、生業の季節性などについて動物考古学の観点から検討するとともに、考古動物学的視点から過去の鳥類相を明らかにしている。とくに東アジア・東南アジアにおける家禽飼育の歴史の解明のために、日本、中国、韓国、タイ、ベトナムなどで共同研究を実施し、各地の遺跡から出土した鳥骨を分析している。一方、特別天然記念物の海鳥、アホウドリ (*Phoebastria albatrus*) の分類と保全のための研究を進め、鳥島と尖閣諸島で生まれたアホウドリは遺伝的、生態的、形態的観点から別種であることを明らかにし、異なる保全単位として管理すべきことを提言してきている。また骨中のコラーゲンタンパクの大部分を占めるⅠ型コラーゲンのアミノ酸配列の解析から、遺跡資料の種同定に有効なアミノ酸配列の特定を目指した研究を実施している。さらに、小林教授と共同で恐竜化石に由来するアミノ酸を解析する研究にも着手している。

### 原著論文

1. 江田真毅 2025「計測値による遺跡出土ウ科4種の同定の試み：入江貝塚出土資料を対象とした事例研究」北海道大学考古学研究室研究紀要, 4, 33-43 pp
2. 山崎健・高橋啓一・新美倫子・川田伸一郎・山口欧志・江田真毅・米田穰 2025「正倉院宝物特別調査動物由来素材（牙甲角）調査報告」正倉院紀要, 47, 3-95pp

### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 江田真毅 2025「自然史の展示2：生物」鶴見英成編『改訂新版 博物館展示論』, 放送大学教育振興会, 213-228 pp.
2. 江田真毅 2025「大学博物館の展示」鶴見英成編『改訂新版 博物館展示論』, 放送大学教育振興会, 133-150 pp.
3. 樋泉岳二・江田真毅 2025「岩手県大船渡市大洞貝塚の考古学的研究 第5章第6節 動物遺体と共存遺物」東京大学総合研究博物館研究報告, 50, 218-230 pp.
4. 江田真毅 2024「博物館発！鳥のお宝ツアー 北海道大学総合博物館」, Birder, 38. 66-67 pp.
5. 江田真毅・泉洋江・米田穰・藤田三郎 2024「日本列島最古のニワトリの骨の年代を確定」, Isotope News, 792, 28-30 pp.
6. 江田真毅 2024「考古学と動物考古学2：動物遺存体からみた陸産資源利用」考古学研究会編『考古学の輪郭』, 考古学研究会, 246-247 pp.
7. 江田真毅・許開軒 2024「動物遺体 鳥類」東京都埋蔵文化財センター編『元浅草遺跡』, 東京都埋蔵文化財センター, 283-285pp.

### 学会発表

1. Hayato Inaba, Kentaro Chiba, Mototaka Saneyoshi, Tsukasa Okoshi, Takaaki Miyaji, Asako Kawakami, Masaki Eda, Miu Tanaka, Yoshitsugu Kobayashi, Kirstin Brink, Buuvei Mainbayar,

- Khishigjav Tsogtbaatar, Hidetsugu Tsujigiwa. 2024. Potential taxonomic implications of endogenous ancient proteins in vertebrate fossils from the Paleogene Ergilin Dzo Formation, Mongolia. SVP 84th Annual Meeting (Minneapolis, USA).
2. Miu Tanaka, Yoshitsugu Kobayashi, Masaki Eda, Hiroe Izumi, Hiroki Kikuchi, Guoping Sun. 2024. Comparative analysis of modern East Asian crocodylians through mass spectrometry of collagen proteins and application to ancient material. SVP 84th Annual Meeting (Minneapolis, USA).
  3. 马璽・李可桢・江田真毅・渡部展也・菊地大樹 2024. 「從GIS来看中国古代家鷄的出現与拡散」2024中国動植物考古学大会（河南省鄭州市黄河迎賓館）
  4. 江田真毅・泉洋江・松見裕二 2024. 「約2000年前の杵岐島のキジ科をコラーゲタンパクの質量分析から探る」日本鳥学会2024年度大会（東京大学）
  5. 富田直樹・細谷淳・江田真毅・泉洋江・佐藤文男 2024. 「洋上捕獲したセンカクアホウドリの周年の利用海域」日本鳥学会2024年度大会（東京大学）
  6. 許開軒・鈴木浩克・三原芳子・江田真毅・高槻成紀 2024. 「フクロウのペリットにおける鳥類骨の残存状態」日本鳥学会2024年度大会（東京大学）
  7. Masaki Eda. 2024. Sex Identification of Early Chickens in the Japanese Archipelago and Korean Peninsula. 21st Congress of the International Federation Association of Anatomists (Gwangju, Korea).
  8. 江田真毅・泉洋江・松見裕二 2024. 「弥生時代のニワトリの継代飼育を探るーカラカミ遺跡資料の分析からー」第11回動物考古学会（東北芸術工科大学）
  9. 許開軒・丸山真史・江田真毅 2024. 「江戸時代のニワトリの大きさの多様性」第11回動物考古学会（東北芸術工科大学）
  10. 李河暎・丸山真史・江田真毅 2024. 「韓国におけるニワトリの普及に関する基礎的研究ーキジ科およびニワトリの出土遺跡の分布と時期的変遷ー」第11回動物考古学会（東北芸術工科大学）
  11. Kai-hsuan Hsu, Masashi Maruyama, Masaki Eda. 2024. How chicken spread across Japan: chicken consumption in three early modern (AD 17th–19th century) cities. ICAZ BWG2024 (Copenhagen, Denmark).
  12. Masaki Eda, Hiroe Izumi, Yuji Matsumi. 2024. Exploring the possibility of successive breeding of chickens in the Yayoi period, Japan. ICAZ BWG2024 (Copenhagen, Denmark).
  13. 江田真毅 2024. 「動物骨からみたニワトリの起源と日本列島への拡散」日本考古学協会第90回総会（千葉大学）

#### 一般講演

1. 5月18日（土）「オホーツク人と動物の関係～ヒグマとアホウドリを中心に～」 「国際博物館の日」記念講座（北海道立北方民族博物館）
2. 8月18日（日）「鳥に願いを!?～遺跡から出土する骨からみた弥生人と鳥の関係～」企画展「弥生人といきもの2024 鳥に願いを」特別講演会（あいち朝日遺跡ミュージアム）
3. 11月16日（土）「遺跡の骨から語る世界最古の家禽」北大道新アカデミー2024年度後期講座 総合コース（北海道大学）

テレビ・ラジオ等出演

なし

---

#### 外部資金

1. 科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))「コラーゲンタンパクの質量分析による東南アジアにおける家禽飼育の起源と拡散の解明」研究代表者
2. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「埋蔵文化財から天然記念物を解き明かす：成立前夜の日本鶏の学際的研究」研究代表者
3. 科学研究費助成事業学術変革領域研究(A)「動物考古学から探るユーラシア家畜文化のダイナミズム」研究分担者
4. 科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応の解明」研究分担者
5. 科学研究費助成事業基盤研究(C)「隠蔽種を含む特別天然記念物アホウドリの生殖隔離に関連する行動学的研究」研究分担者
6. 科学研究費助成事業基盤研究(C)「考古遺跡より出土する部分骨格標本の分子生物学的研究とその開発」研究分担者
7. 科学研究費助成事業基盤研究(A)「畜飼育と文明形成：統合型考古学によるアンデス文明史の更新」研究分担者
8. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「生業動態からみた擦文文化の分布拡大要因」研究分担者
9. 外国人研究者招へい事業 外国人特別研究員（欧米短期）調査研究費「JAWS – Japanese Archaeology of WhaleS」受入研究者
10. 令和6年度水産資源調査・評価推進事業「混獲アホウドリ類の骨組織分析」研究代表者

#### 学会活動

日本動物考古学会 編集委員長

日本鳥学会 英文誌編集委員

日本鳥学会 基金運営委員会副委員長

International Journal of Osteoarchaeology, Editorial Board

#### メディアへの広報（プレスリリースなど）

なし

## 阿部剛史 准教授

### 研究内容の概要

海藻分類学。（１）紅藻ソゾ属および近縁属の系統分類学的研究と化学成分研究。広義ソゾ属（*Chondrophycus*, *Laurencia*, *Laurenciella*, *Osmundea*, *Palisada*, *Yuzurua*）の系統分類学的研究を、形態形質に加えて分子系統、培養実験、成分分類学的手法を用いて進めている。また、ウラソゾの種内分化（ケミカルレース）における個体群構造について、分子系統学的手法を用いて解明を進めた。

（２）北方コンブ類の系統分類学的研究。資料部との共同研究として、サハリン・カムチャツカおよび日本産の材料を用い、北方コンブ類の系統分類学的研究を進めている。（３）日本及び東南アジア・極東ロシアの海藻相に関する研究。上記の２群に限らず東南アジアから日本を経て極東ロシアに至る北西太平洋の海藻相についての研究をおこなっている。（４）日本海における寒冷適応進化・多様化に関する共同研究。日本海をはじめとする縁海で、氷期に分断された海域で寒冷適応化・種分化が生じ、次の間氷期に北方の寒冷海域に進出するという「日本海多様化工場説」を、神谷隆宏教授（金沢大）が貝形虫の研究から提唱した。この説を海藻類において検証する共同研究をおこなっている。（５）標本に含まれる放射性同位体に着目した共同研究。数十年から百年以上前に採集された海藻標本が多数収蔵されている当館の特徴を活かし、磯焼け現象が見られる前の時代における窒素源の推定や、核実験以前の本来の沃素同位体比の推定など、分類学以外の分野に海藻標本を活用する共同研究をおこなっている。

## 田城文人 助教

### 研究内容の概要

魚類分類学。(1) 深海性魚類の分類学的・生物地理学的研究。基礎生物学的な情報に乏しい深海性魚類を対象として、それらの種多様性や進化史を形態・分子データに基づき多角的な手法で調査している。中でも、水産上重要種は資源管理等の側面からも正確な基礎情報の把握が求められる。そこで、現在はウナギ目を中心に、水産重要種を多く含む分類群を主な研究対象としている。(2) 日本海産浅海性魚類の分類学・生物地理学的研究。日本列島は太平洋・日本海・オホーツク海・東シナ海に囲まれるが、日本海に産する魚類の種多様性は未解明な状況にある。そこで、とくに研究が進んでいない浅海性魚類を対象として、日本海産魚類の種多様性の解明を進めている。同時に、過去(所蔵標本)から現在(新規標本)までの標本を利活用することで、種多様性の時系列的な変動に関する研究も実施している。(3) アンダマン海産深海性魚類の分類学的研究。アンダマン海(東部インド洋)に分布する深海性魚類を対象として、それらの分類学的な研究を実施している。標本調査に際しては、標本を保有するタイ王国ブーケットの研究施設を訪問し、現地スタッフらに資料の維持・管理を指導している。(4) 北海道産魚類のDNA解析用試料・写真インベントリーの構築。水産科学館には24万点の魚類標本があるが、形態観察を主用途とする標本であった。近年は北方系魚類の集団遺伝解析も盛んに実施されつつあり、他機関からの利用要望も多いことから、各種10個体を目安にしてDNA解析用の資料を蓄積させている。加えて、標本化前の色彩保存・記録を目的として、全ての種で生鮮時写真を撮影し、写真資料として保管している。

### 原著論文

1. Kawai, T., Tashiro, F., Nakayama, N., Kumagai, Y., Aungtonya, C. and Tuanapaya, S. 2024. Deep-sea fishes from the Andaman Sea by R/V Chakratong Tongyai during 1996–2000. Part 9: orders Chimaeriformes, Carcharhiniformes, Torpediniformes and Rajiformes. Phuket Mar. biol. Cent. Res. Bull. 81: 93–104.
2. Kimura, K., Misawa, R. and Tashiro, F. 2024. Descriptions of post-settlement juveniles of 3 greeneye species, *Chlorophthalmus nigromarginatus*, *C. acutifrons*, and *C. albatrossis* (Teleostei: Chlorophthalmidae), from Japan, with notes on their rapid metamorphosis after settlement. Fishery Bulletin, 122: 186–202.
3. Matsunuma, M., Kanai, S., Seah, Y. G., Tashiro, F. and Motomura, M. 2025. Resurrection of the five-ocellated left-eye flounder *Pseudorhombus ocellifer* Regan 1905 (Paralichthyidae), with redescription of *Pseudorhombus pentophthalmus* Günther 1862 and *Pseudorhombus oculocirris* Amaoka 1969. Ichthyol. Res. DOI: 10.1007/s10228-025-01019-w.
4. Misawa R., Inuzuka, A., Fujiwara, K., Furusho, M., Tashiro, F., Takami, M. and Kai, Y. 2024. Records of the Rare Flabby Whalefishes *Cetomimus hempelii* and *Gyrinomimus bruuni* (Teleostei: Beryciformes) from Japan. Species Diversity, 29: 269–279.
5. Obata, K., Sugiyama, A., Kawai, T., Tashiro, F., Imamura, H., Aungtonya, C. and Tuanapaya, S. 2024. Deep-sea fishes from the Andaman Sea by R/V Chakratong Tongyai during 1996–2000. Part 8: order Myctophiformes. Phuket Mar. biol. Cent. Res. Bull. 81: 27–50.

#### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 田城文人（分担執筆）日本の深海魚図鑑. 山と溪谷社.

#### 学会発表

#### 一般講演

#### 外部資金

1. 科学研究費助成事業基盤研究(C)「深海底生性魚類の種多様性評価：コスモポリタンは真実か？」研究  
代表者

#### 学会活動

1. 日本魚類学会 代議員
2. 日本魚類学会 編集委員

## 首藤光太郎 助教

### 研究内容の概要

植物体系学。(1) 北海道の維管束植物相に関する研究。北海道は国内の都道府県の中で最も広く未踏地も多いことから、他の都府県と比べ植物相の解明が不十分である。道内における希少種などの特筆すべき種の新産地やその生育および分布状況、一定範囲の植物相などを研究している。(2) 植物標本の収集および活用に関する研究。分類群・地域環境問わず日常的に植物標本を収集・整理し、陸上植物標本庫 (SAPS) の蓄積を図っている。これらのコレクションや既存の標本を活用し、国内産植物の分類や分布の整理を行う。(3) 日本国内の水生植物相に関する研究。国内の水生植物は、およそ 4 割の種が環境省のレッドリストに掲載されており、全国的に減少傾向にある。その一方で、国内における水生植物の分布状況は十分に把握されていない。自然湖沼・ため池・河川といった日本国内の水辺を巡り、水生植物相調査、分類学的研究、調査手法について研究を行っている。(4) ツツジ科イチヤクソウ属を用いた植物の菌従属栄養性の進化。ツツジ科イチヤクソウ属には葉が縮小しほぼ完全な菌従属栄養性をもつヒトツバイイチヤクソウと、これに近縁な普通葉をもつイチヤクソウが知られている。両者は近縁な関係間で異なる菌従属栄養性を示すことから、菌従属栄養植物の進化過程の研究に有用な材料であり、これらの系統・分類・進化学的な研究を行っている。

### 原著論文 ※査読のあるもの

1. Shefferson RP, **Shutoh K**, Suetsugu K. 2024. Life history costs drive the evolution of mycoheterotrophs: increased sprouting and flowering in a strongly mycoheterotrophic *Pyrola* species. *Journal of Ecology* **112**(6): 1287–1300.
2. Yano O, **Shutoh K**, Kato Y, Ikeda H. 2024. Lectotypification of *Carex* (Cyperaceae) described by Shigeo Akiyama in the Herbarium of the Hokkaido University Museum (SAPS) (2). *Journal of Japanese Botany* **99**(3): 173–181.
3. Nakagawa H, Sato K, Tanaka N, **Shutoh K**. 2024. A new record of *Festuca probatovae* (Poaceae), a previously neglected species in the Japanese Flora. *Journal of Japanese Botany* **99**(3): 182–189.
4. **Shutoh K**, Vasques DT, Ikeda H. 2024. Lectotypification of *Adonis multiflora* (Ranunculaceae). *Journal of Japanese Botany* **99**(5): 325–328.
5. Nakagawa H, Sato K, **Shutoh K**. 2024. A new record of *Festuca auriculata* (Poaceae) in Japan. *Journal of Japanese Botany* **99**(5): 332–339.
6. **Shutoh K**, Michikawa F, Igarashi H, Tsuyuzaki S. 2025. Re-recognition of potentially introduced *Symphytotrichum ciliatum* (Ledebour) G. L. Nesom (Asteraceae) after a half century in Japan. *Acta phytotaxonomica et geobotanica* **76**(1): 51–55.
7. **首藤光太郎**, 藤田玲, 菊地賢, 中川博之, 横山 (木村) 耕. 2024. 絶滅危惧種ヤツガタケムグラ (アカネ科) は北海道に広く分布する. 植物研究雑誌 **99**(4): 260–264.
8. 矢野興一, 鐵慎太郎, **首藤光太郎**. 2024. 岡山県瀬戸内市前島で見出されたコゴメスゲ (カヤツリグサ科) および岡山県内での分布. 莎草研究 (26): 45–49.

執筆（著書・総説・解説・報告等） ※査読のない研究会誌や紀要等で発表した原著論文を含む

1. 首藤光太郎. 2024. 北海道で築かれた植物標本と植生学の良好な関係とその価値・課題. 植生情報 (28): 26-30.
2. 首藤光太郎, 山崎真実, 中里清孝. 2024. 北海道羊蹄山麓半月湖の水生植物相. 水草研究会誌 (116): 1-10.
3. 首藤光太郎. 2025. ケカナダアキノキリンソウ問題の一時的打開を語る. 北方山草 (42): 79-83.
4. 山崎真実, 首藤光太郎. 2025. 札幌地域の絶滅危惧植物の現状について（予報）. 北方山草 (42): 107-116.
5. 首藤光太郎. 2024. 北海道で展開された植物分類・系統・進化学の今昔. *Arctic Circle* (北海道立北方民族博物館友の会季刊誌) (131): 14-17.
6. 山崎真実, 首藤光太郎. 2024. 第45回水草研究会全国集会（札幌）を振り返って. 水草研究会誌 (116): 53-58. (水草研究会第45回全国集会の運営記録)

学会発表（\*演者）

1. \*首藤光太郎. 「北海道におけるウリカワの記録について」. 水草研究会第46回全国集会（滋賀）, 2024年8月24日, 滋賀県立琵琶湖博物館, P-02, ポスター.
2. \*野崎元葉, 森田詞奈, 山本憲司, 野間直彦, 永益英敏, 首藤光太郎, 大槻達郎, 原田恵美子. 「伊吹山に自生する希少植物イブキカモジグサ及び類縁植物の系統分類」. 日本植物学会第88回大会, 2024年9月14-16日, 宇都宮大学陽東キャンパス, P-018, ポスター.
3. 平野遥人, 藤田玲, 海老原淳, 中山隆治, \*首藤光太郎. 「絶滅種タカネハナワラビの再発見, 隣接するミヤマハナワラビの新産地も発見」. 日本植物分類学会第24回大会, 2025年3月7-10日, 高知大学朝倉キャンパス, OB13, 口頭.
4. \*奥山修右, 石川弘晃, 首藤光太郎. 「北海道根室地方の自然湖沼の水生植物相」. 日本植物分類学会第24回大会, 2025年3月7-10日, 高知大学朝倉キャンパス, PE02, ポスター.
5. \*石川弘晃, 富士田裕子, 首藤光太郎. 「根室地方の湿地植物群植物相を特徴づける植物種と環境条件」. 日本植物分類学会第24回大会, 2025年3月7-10日, 高知大学朝倉キャンパス, PE03, ポスター.
6. \*吉田かなみ, 首藤光太郎, 津田吉晃, 田中健太, 岩崎貴也. 「本州中部と北海道で隔離分布する冷温帯湿地性植物カラフトイバラの系統地理的歴史」. 日本植物分類学会第24回大会, 2025年3月7-10日, 高知大学朝倉キャンパス, PE23, ポスター.
7. \*山本将也, 堀田清, 首藤光太郎, 倉田正観, 池上温人, 長澤耕樹. 「広義チシマセンブリの分類学的再検討」. 日本植物分類学会第24回大会, 2025年3月7-10日, 高知大学朝倉キャンパス, PB24, ポスター.
8. \*金子和広, 佐久間春子, 首藤光太郎, 井上京, 三木昇, 内田暁友, 富士田裕子. 「山岳泥炭地湿原における植生パターンとドローン由来の微地形条件との対応関係」. 第72回日本生態学会大会, 2025年3月15-18日, 札幌コンベンションセンター, P1-068, ポスター.
9. 首藤光太郎. 「標本庫に15年こもって感じる大学が所有する植物標本の状況と未来」. 第72回日本生態学会大会自由集会「博物館の生態学16 これからの自然史コレクション、保存と活用をどう進めるか」, 2025年3月18日, 札幌コンベンションセンター, 口頭.

#### 社会貢献活動（一般向け講演）

1. **\*首藤光太郎**．「北海道の山地で最近見つかった日本新産植物とその傾向」．北海道高山植物保護ネット2024年度市民フォーラム「お花畑は、いま・・・2024」，2024年11月23日，北海道大学農学部（北海道札幌市）．
2. **\*首藤光太郎**．北海道立北方民族博物館講座「北の植物研究①？：原コレクションの同定から知ったすごく寒い地域の植物の話」，2024年12月8日，北海道立北方民族博物館（北海道網走市）．

#### 社会貢献活動（委員・講師等）

1. 環境省希少野生動植物種保存推進員（2015年～現在）
2. 環境省「重要生態系監視地域モニタリング推進事業（陸水域調査）」調査員（2017年～現在）
3. 北広島市特別天然記念物野幌原始林保存活用計画検討委員会委員（2023年4月～2025年3月）
4. マリモ科学委員会（2024年5月～現在）
5. 北海道希少野生動植物種保護対策検討有識者会議植物専門部会構成員（2025年3月～現在）
6. 令和6年度特別天然記念物野幌原始林保存活用計画検討「野幌原始林のこれからを考える市民ワークショップ」第2回講師（2024年6月14日）
7. 北広島市「まちを好きになる市民大学」講師（2024年7月6日）

#### テレビ・ラジオ等出演

特になし

#### 外部資金

1. 独立行政法人環境再生保全機構環境研究総合推進費（4-2303）「生物多様性保全・気候変動対策・地域振興を最適化させる自然公園設計：北海道東部・根釧地方における学際的研究と実践」，研究分担者，2,778,100円．

#### 学会活動

1. 日本植物分類学会 研究・普及推進委員会委員（2019年～現在）
2. 水草研究会 事務局（2021年～現在）
3. 北海道自然史研究会役員（2024年～現在）
4. 日本植物分類学会評議員（2025年1月～現在）
5. 水草研究会 幹事（2019年～現在）
6. 東北植物研究会『東北植物研究』編集委員（2015年度～）

#### メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. 2024年10月23日 サハリノウシノケグサとジョウテンウシノケグサの発見～葉断面の観察から新たに国内から見つかったウシノケグサ属2種～
2. 2025年3月13日 国内で約半世紀ぶりに確認されたモウコムカシヨモギ～珍外来種が浜厚真の海岸を埋め尽くす～

## 北野一平 助教

### 研究内容の概要

地質学および岩石鉱物学。変成岩の形成過程や起源・帰属についての研究。南極やスリランカといったゴンドワナ超大陸の形成に伴う大陸衝突帯に位置していた変成岩を調査・分析し、①変成岩の元々の岩石である原岩の種類・形成テクトニクス場・形成年代を推定し、その原岩の起源・帰属を明らかにする、②変成岩が経験した変成作用の温度圧力時間履歴を解読し、当該地域における変成過程のテクトニクスを復元する。また、国内では、日高山脈をなす日高変成帯など道内の地質体や日本列島最古級の地質体である黒瀬川構造帯や長門構造帯の変成岩および関連する深成岩などを調査・分析し、日本列島の発達史を研究している。そのほかにも、ベトナムの変成岩類の研究にも着手している。

### 原著論文

1. Baba, S., Hokada, T., Kamei, A., Kitano, I., Motoyoshi, Y. 2024. Low-pressure isobaric cooling metamorphic P-T paths from Botnnuten in the southern Lützow-Holm Complex, East Antarctica. *Mineralogy and Petrology*, <https://doi.org/10.1007/s00710-024-00859-0>.

### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

なし

### 学会発表

12. Sajeev, K., Rajkumar, P., Kitano, I., Durgalakshmi, Satish-Kumar, M., Chatterjee, S., Williams, I.S., Takazawa, E. 2024. Crustal evolution of olivine-charnockite from south-eastern Madurai Block, India and Wannai Complex, Sri Lanka. Japan Geoscience Union Meeting 2024, Chiba.
13. 北野一平. 2024. 北海道日高変成帯のマイロナイト化した泥質グラニュライトから見出された後退変成藍晶石とゾイサイト. 日本地質学会第131年学術大会, 山形.
14. 北野一平, 外田智千, 馬場壮太郎, 亀井淳志, 本吉洋一. 2024. 東南極リュツォ・ホルム岩体あけぼの岩東部に産する含十字石片麻岩の温度圧力経路. 日本地質学会第131年学術大会, 山形.
15. 北野一平. 2024. 栃木県西部足尾山地に産する珪線石－クリソベリル含有片麻岩の熱履歴と原岩碎屑物供給源. 日本鉱物科学会2024年年会, 名古屋.
16. Kitano, I., Toyoshima, T., Ishikawa, M., Katori, T. 2024. The pressure-temperature conditions of garnet-orthopyroxene granulite from Oku-iwa Rock in the Lützow-Holm Complex, East Antarctica. The fifteenth Symposium on Polar Science, Tokyo, Japan (Online)
17. 北野一平. 2025. ベトナム北部Nam Dinh地域に小規模に産する変成岩類の温度圧力条件. 2025 変成岩などシンポジウム 青葉山大会, 仙台.

### 一般講演

1. 札幌西高等学校定時制特別授業（2024年6月15日）
2. 洞爺湖町立虻田中学校展示紹介（2024年10月10日）

#### 外部資金

1. The National Foundation of Science and Technology Development of Vietnam 「Revealing tectonic evolution of Paleozoic arc crust by petrochronology of basement rocks between the Tam Ky-Phuoc Son and Da Nang-Dai Loc shear zones」 研究分担者

#### テレビ・ラジオ等出演

なし

#### 学会活動

2. 日本地質学会 会員
3. 日本鉱物科学会 会員
4. 日本地球惑星科学連合 会員
5. 南極地質研究委員会委員
6. 日本鉱物科学会研究発表優秀賞選考委員代理
7. 日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員

#### 博物館教育研究活動

1. 2024 年度学生企画グッズ指導（2024 年度博物館コミュニケーション特論：ミュージアムグッズの開発と評価）
2. 2024 年度卒論ポスター発表会 発表・運営指導

#### 社会貢献

4. 「SDGs デー2024」ワークショップ（11/2）
5. 岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）（12/7）

#### メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. 北海道文化放送オウンドメディア SASARU 取材（6/16）
2. プレスリリース「学生企画オリジナルミュージアムグッズ 2024 年の新展開のお知らせ」（10/22）
3. 「北海道大学総合博物館 授業から生まれた学生企画オリジナルミュージアムグッズのご紹介」北海道大学創基 150 周年記念サイト（10/30）
4. 「北海道大学総合博物館 2024 年度卒論ポスター発表会開催」 北海道大学創基 150 周年記念サイト（3/1, 3/2）

#### 賞罰

なし

## 許 開軒 特任助教

### 研究内容の概要

動物考古学。遺跡から出土した鳥類の骨を分析し、過去の人による鳥類利用の様相を復元する。(1) ニワトリ利用が近世日本で普及した過程を明らかにするために、江戸時代の各地域の遺跡から出土した鳥類遺体を分析し、出土鳥類骨に占めるニワトリの割合、利用されたニワトリの年齢・性比、形態等の時間的変化について調べている。(2) 日本列島でワシ・タカはいかに人と関わってきたかを解明するために、過去に利用された、あるいは人の生活域周辺に生息したワシ・タカの種類について調べている。各種の現生骨格標本を観察し、骨形態の比較を通して、日本の遺跡から出土したタカ科の骨を同定するための基準を作成している。また、コラーゲンのアミノ酸配列の解析から、タカ科の属や種同定に有効なアミノ酸配列の特定を目指している。

### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 江田真毅・許開軒 2024「鳥類」東京都埋蔵文化財センター編『元浅草遺跡』,東京都埋蔵文化財センター,283-285pp.

### 学会発表

1. Kai-hsuan Hsu, Masashi Maruyama, Masaki Eda. 2024. How did the chicken spread in Japan: chicken consumption in three early modern (AD 17th–19th) cities. ICAZ Bird Working Group (Copenhagen, Denmark).
2. 許 開軒・丸山真史・江田真毅 2024.「江戸時代のニワトリの大きさの多様性」日本動物考古学会第11回大会（東北工科大学）
3. 許 開軒・鈴木浩克・三原芳子・江田真毅・高槻成紀 2024.「フクロウのペリットにおける鳥類骨の残存状態」日本鳥学会2024年度大会（東京大学）]

### 一般講演

1. 4月13日（土）、「江戸時代のニワトリの話」土曜市民セミナー（北海道大学総合博物館）

### 外部資金

1. 科学研究費補助金事業研究スタート支援「日本で人はいかにワシ・タカと関わっていたか？遺跡出土骨の形態とコラーゲンから探る」研究代表者
2. 科学研究費補助金事業国際共同研究加速基金(海外連携研究)「千島列島における海洋生産性の変動とその人類への影響」研究分担者

### 学会活動

1. 日本動物考古学会 会員
2. 日本鳥学会 会員

## IV. 教育

### 教育分野の取り組み

- 博物館教員は、全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習を主担当や分担を行っており、教育に大きく貢献している。
- 博物館独自の教育プログラムである、ミュージアムマイスター認定コースとパラタクソノミスト養成講座を行っており、多彩に多次元に北海道大学の院生や学生の質向上に努めている。
- 各教員は、他部局を兼務しており、院生や学生の研究指導をし、各分野の研究レベル向上に貢献している。

### A 全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習

|                                                                |                                                                                |
|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| <b>学芸員養成科目</b>                                                 |                                                                                |
| 博物館資料保存論                                                       | 大原昌宏（分担）                                                                       |
| 博物館資料論                                                         | 阿部剛史（分担）                                                                       |
| 博物館実習（事前事後指導）                                                  | 大原昌宏（分担）                                                                       |
| 博物館実習（館務実習）<br>実習分野：第2農場と植物（藻類、陸上植物）、動物（昆虫、脊椎動物）、地学（古生物、鉱物・岩石） | 湯浅万紀子、博物館教員全員、（坪田敏男、近藤誠司、越前谷宏紀、三谷朋弘）、事務（高橋宏市）、研究支援推進員（市来紗都子、土田江里子）、技術補助員（福岡久典） |
| 博物館展示論                                                         | 小林快次（分担）、北野一平（分担）、江田真毅（分担）                                                     |
| <b>全学教育</b>                                                    |                                                                                |
| 一般教育演習「モノ・コト・ヒト」                                               | 阿部剛史（主担当）、博物館教員全員                                                              |
| <b>大学院教育</b>                                                   |                                                                                |
| 大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論III」                                     | 北野一平、湯浅万紀子                                                                     |
| 大学院共通授業「博物館学特別講義I」                                             | 首藤光太郎（主担当）、北野一平、大原昌宏、小林快次、阿部剛史                                                 |

## B ミュージアムマイスター認定コース

ミュージアムマイスター認定コースは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力をもち、自己評価の視点を身につけた北大生を認定する、学内のさまざまな部局の協力を得て展開している総合博物館独自の教育システムである。

担当教員：湯浅万紀子、北野一平、小林快次、江田真毅、首藤光太郎

活動内容：以下の三段階で開講科目を設置している。

(1) 導入科目：環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。

また、博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。

(2) ステップアップ科目：実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。さらに博物館活動と運営について理解を深める科目。

(3) 社会体験型科目：博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。

(a) 卒論ポスター発表会での発表

開催日：令和 7 年 3 月 1 日（土）・2 日（日）

会場：総合博物館 1 階 知の交流ホール

内容：ガイダンスと 3 回の中間発表会、開催前日のリハーサルを経て、卒論を市民向けの 1 枚のポスターにまとめ、市民と審査員に向けて説明し、質疑応答を行った。参加学生が 3 名であったため、最優秀賞・SDGs賞、ミュージアム・マイスター賞、来館者は設けず、教職員審査員・市民審査員・来館者からのコメントを講評会および事後にまとめて伝えた。参加学生：3 名（農学部

1 名・理学部 2 名）

(b) 卒論ポスター発表会の運営

開催日と会場：同上

内容：広報ポスター（学内・学外向け）の制作・掲示依頼、中間発表会への参加、発表会プログラムの制作、運営方法の検討、2 日間の発表会の運営

参加学生：6 名（文学部 3 年生・理学部 3 年生・工学部 3 年生・文学院修士課程 1 年生・公共政策大学院 1 年生・水産科学院博士課程 1 年生：各 1 名）

令和 6 年度ミュージアムマイスター認定

前期 2 名：佐藤英（理学部 3 年生）、三田尾有希子（文学院修士課程 2 年生）

後期 4 名：徳井翠（理学部 3 年生）、山中葉奈子（文学部 3 年生）、多久和隼（理学院修士課程 2 年生）、西山貢（文学部 4 年生）

## C パラタクソノミスト養成講座

本養成講座は、北大生を対象にしており、一般市民も参加できるものである。受講することによって、学術標本やサンプルを正しく同定できる能力を持つことを目的とする。また、標本の研究や教育的面の価値や重要性を認識し、当館に収蔵されている学術標本を利活用しやすいように整備する人材を増やすことを目的としている。本年度は、6 分野 7 講座を開催した。

1. 昆虫パラタクソノミスト養成講座 初級

会期：2024 年 8 月 10, 11 日

場所：北海道大学総合博物館 3 階 (N328)

講師：大原昌宏・菊地那樹・竹本拓矢・下中

淳ノ介・安藤徒樹

参加人数：12 名

2. パラタクソノミスト養成講座 植物 (初級)

会期：2024 年 9 月 7 日

場所：北海道大学総合博物館 3 階 (N328)

講師：首藤光太郎

参加人数：12 名

3. 考古パラタクソノミスト養成講座 (初級)

会期：2024 年 9 月 8 日

場所：北海道大学総合博物館 3 階 (N328)

講師：小野裕子

参加人数：10 名

4. パラタクソノミスト養成講座 植物 (中級)

会期：2024 年 9 月 14, 15 日

場所：北海道大学総合博物館 3 階 (N328)

講師：首藤光太郎

参加人数：5 名

5. きのごパラタクソノミスト養成講座 初級

会期：2024 年 10 月 26 日

場所：北海道大学総合博物館 3 階 (N328)

講師：小林孝人

参加人数：10 名

6. 動物考古パラタクソノミスト養成講座 (上級)

会期：2024 年 11 月 17 日

場所：北海道大学総合博物館 3 階 (N328)

講師：江田真毅・許 開軒

参加人数：6 名

#### 7. 岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）

会期：2024 年 12 月 7 日

場所：北海道大学総合博物館 3 階（N328）

講師：北野一平

参加人数：15 名

### D 各教員が指導する院生や学生

総合博物館の教員は、他の部局の兼任を勤めており、院生や学部生を指導・教育しており、大学の研究と教育の質向上に大きく貢献している。以下がそのリストとなる。

| 氏名     | 学年 | 所属         | 担当教員 |
|--------|----|------------|------|
| 清水 洲平  | D3 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 宇津木 洋平 | D3 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 田中 美羽  | D3 | 理学院(S203)  | 小林快次 |
| 高田 健太郎 | D3 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 大藪 隼平  | D2 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 川本一陽   | D1 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 東 祐大   | D1 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 鬼塚 翔暉  | D1 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 守屋 友一朗 | M2 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 大野 真緒  | M2 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 伊藤 政矩  | M2 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 矢倉 鉄平  | M2 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 多久和 隼  | M2 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 菅 遥斗   | M1 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 祖父江 陽介 | M1 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 城川 響生  | B4 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 上谷 悠輔  | B4 | 理学部(S203)  | 小林快次 |
| 能瀬 晴菜  | D3 | 農学院 (S203) | 大原昌宏 |
| 竹本 拓矢  | D3 | 農学院 (S203) | 大原昌宏 |
| 下中淳ノ介  | M2 | 農学院 (S203) | 大原昌宏 |
| 西村 涼大  | M2 | 農学院 (S203) | 大原昌宏 |
| 安藤 徒樹  | M1 | 農学院 (S203) | 大原昌宏 |
| 田作 勇人  | M1 | 農学院 (S203) | 大原昌宏 |
| 重藤 裕彬  | M1 | 農学院 (S203) | 大原昌宏 |

|        |     |             |       |
|--------|-----|-------------|-------|
| 毛利 顕   | 研究生 | 総合博物館(S203) | 大原昌宏  |
| 西嶋 圭   | M2  | 理学院(N307)   | 阿部剛史  |
| 五十嵐 茉奈 | M1  | 理学院(N307)   | 阿部剛史  |
| 久野 建志郎 | B4  | 理学院(N307)   | 阿部剛史  |
| 楊 紫雲   | 研究生 | 総合博物館(S203) | 江田真毅  |
| 劉 旻    | D1  | 総合博物館(S203) | 江田真毅  |
| 金子 和広  | D1  | 農学院 (N324)  | 首藤光太郎 |
| 井河 龍之介 | M2  | 農学院 (N324)  | 首藤光太郎 |
| 石川 弘晃  | M1  | 農学院 (N324)  | 首藤光太郎 |
| 奥山 修右  | B4  | 農学院 (N324)  | 首藤光太郎 |
| 大石橋 夏希 | B4  | 水産学部        | 田城文人  |
| 清水 孝太郎 | B4  | 水産学部        | 田城文人  |
| 長野 珠子  | B4  | 理学部         | 北野一平  |
| 皆川 泰輝  | B4  | 理学部         | 北野一平  |

修士論文・博士論文の主査・副査（件数）

| 教員名   | 博士論文      | 修士論文           |
|-------|-----------|----------------|
| 小林快次  | 2 件（副査 2） | 5 件（主査 3・副査 2） |
| 大原昌宏  | 1 件（副査 1） | 4件（主査 2・副査 2）  |
| 湯浅万紀子 | 0 件       | 0 件            |
| 江田真毅  | 0 件       | 0 件            |
| 阿部剛史  | -         | -              |
| 田城文人  | 1件（副査 1）  | 1件（副査 1）       |
| 首藤光太郎 | 0 件       | 0 件            |
| 北野一平  | 0 件       | 1件（副査 1）       |

## V. 社会貢献

### A 展示

#### <常設展示>

##### ・新型コロナウイルス蔓延防止対策

令和5年5月8日に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられたことを受け、「感じる展示室」と各常設展示室内の「触れる展示」の再開を続けている。入り口と「感じる展示室」をはじめ館内各所にアルコール消毒液の設置を続けている。

##### ・北大の学び舎維持発展WG 開催

趣旨：2016年7月26日にリニューアルオープンした総合博物館には、新たに人文・社会・自然科学を網羅する本学の全12学部の最新の研究や教育、社会貢献などについて紹介する「北大の学び舎」が加わった。全学部の最新情報を手軽に得ることができる。北大の学び舎維持発展WGは、各部局の展示担当教員と共に、展示を維持し発展するために議論するものである。

担当教員：首藤光太郎、北野一平

開催日：第1回令和6年7月23日（火）オンラインにて開催

第2回令和7年3月27日（木）オンラインにて開催

##### ・水産科学館展示施設WG

水産科学館本館の改築に伴う準備活動を実施し、施設老朽化に伴い長期間にわたり休館していた収蔵・展示施設の建て替えが行われ、2024年に図書館とのMLA複合施設「水産科学未来人材育成館」が函館キャンパスに開館した。

##### ・展示解説・案内対応

2021年度に制作したガイダンスビデオ（博物館公式YouTubedで公開）の視聴を促し、市民・団体向けの展示解説・案内対応は館として実施しないこととした。

ボランティアの展示解説グループでは、週末を中心に、古生物の部屋での解説や館内各所での解説を実施した。

##### ・その他

- 「北大のいま」展示の北大の組織図、および「北大の学び舎」展示の各学部サイネージの就職状況の情報を更新した。

## <企画展示>

### ・展示名：夏季企画展「北大の探求心2024」

担当者：江田真毅・首藤光太郎・北野一平

概要：現在、北海道大学には12の学部、21の大学院、25の附置研究所・研究センター・学内共同施設があり、日夜最先端の研究教育活動が展開されている。そして1876年の札幌農学校開校以来、およそ150年の歴史の積み重ねによって本学の叡智が熟成されてきた。本学における最新の教育・研究成果の社会への還元を目的として、令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」では、選りすぐりの8つの研究教育組織がそれぞれで推進されている研究教育活動の最先端を紹介・展示した。

期間：

第1期：令和6年7月5日(金)～8月12日(月・祝) / 北方生物圏フィールド科学センター、スラブ・ユーラシア研究センター、地球環境科学研究所、サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門

第2期：令和6年8月20日(火)～9月29日(日) / アイヌ・先住民研究センター、環境健康科学研究教育センター、工学研究所、地震火山研究観測センター

会場：北海道大学総合博物館 1階 企画展示室

主催：北海道大学総合博物館

協力：アイヌ・先住民研究センター、環境健康科学研究教育センター、工学研究所、サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門、地震火山研究観測センター、スラブ・ユーラシア研究センター、地球環境科学研究所、北方生物圏フィールド科学センター

入館者数：70,582名

第1期展示期間: 7月 5日(金)～8月12日(月)  
第2期展示期間: 8月20日(火)～9月29日(日)

北海道大学には様々な研究機関があり、日々発展する組織が  
数多くあります。令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」  
では、選りすぐりの8つの研究教育組織がそれぞれで推進  
されている研究教育活動の最先端を紹介・展示します。



全館6年度夏季企画展

# 北大の探求心2024

時間  
10:00-17:00

会場  
北海道大学総合博物館  
1階企画展示室

休館  
月曜日(国定休日の場合は休館せず)  
※天候等による臨時休館の可能性あり

料金  
入場無料

QRコード

アクセスマップ

主 北海道大学総合博物館  
TEL: 011-700-2659

・展示名：「ピンチのおとも」展

担当者：首藤光太郎・北野一平・湯浅万紀子

概要：『ピンチのおとも』誌では、北海道新聞で読者の悩みに、北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センターの研究者が応えた記事がまとめられている。その内容をさらに広く発信することで、様々な悩みを共有し孤立するのではなく、さらに多くの人たちが知り合い、つながっていける、そのきっかけの1つになることを願い、『ピンチのおとも』展が企画された。

期間：令和6年 10月22日（火）から10月27日（日）

会場：総合博物館 1階ラウンジ

主催：北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター

共催：北海道大学総合博物館

入館者数：10,970名



・展示名：「ホッキョクグマ」展

担当者：坪田敏男

概要：過酷な環境で生きるホッキョクグマの暮らしと、ホッキョクグマを追う研究者の取組を紹介し、ホッキョクグマが生き続けられる未来のためにできることを来館者と共に考える機会とした。企画展を担当した当館の坪田敏男館長と札幌市円山動物園の鳥居佳子氏（動物専門員）によるトークショーも開催した。

期間：令和6年 10月10日（木）～11月30日（土）

会場：総合博物館 1階 企画展示室

主催：北海道大学総合博物館

共催：札幌市円山動物園、NHK札幌放送局

入館者数：45,438名

関連トークショー：ホッキョクグマの未来を考える

日時：令和6年11月2日（土）13:30～15:00

場所：北海道大学総合博物館 1階ホール 知の交流

演者：坪田 敏男（北海道大学獣医学研究院教授・北海道大学総合博物館館長）・鳥居 佳子（札幌市円山動物園 動物専門員）

司会：池田 浩康（札幌市円山動物園 飼育展示担当係長）

主催：北海道大学総合博物館

共催 札幌市円山動物園

対象 高校生以上

#### ・展示名：「トガリネズミ展—他の哺乳類とくらべてみよう—」

担当者：大原昌宏、大館智志（資料部研究員）

概要：2017年以来、総合博物館では生体展示を開催しており、トガリネズミの認知は次第に上がっている印象をうける。また本年は、当博物館研究員（低温研・助教）の大館智志がトガリネズミの研究で日本哺乳類学会賞を受賞し、トガリネズミ類の研究成果を一般に紹介するのにより機会でもある。本企画では主に一般市民を対象に北海道に生息しているトガリネズミ類の生体展示を行うとともに、パネル等での啓蒙教育を行う。また今回の企画の特徴は、トガリネズミ類などの小型哺乳類の骨格の展示を行う。これは科学的に興味深いだけでなく、美術・造形的に優れたアトラクションとなると思われる。合わせて一般市民向けにトガリネズミ類の進化・生態や飼育などについての講演を行う。

期間：令和6年12月10日（火）～12月22日（日）

会場：総合博物館 1 階 北極域研究センター展示室

主催：北海道大学総合博物館

入館者数：7,014名

#### 関連セミナー：「トガリネズミ展公開セミナー」

日時：令和6年12月22日（日）13:30～15:15

場所：北海道大学総合博物館 1階ホール 知の交流

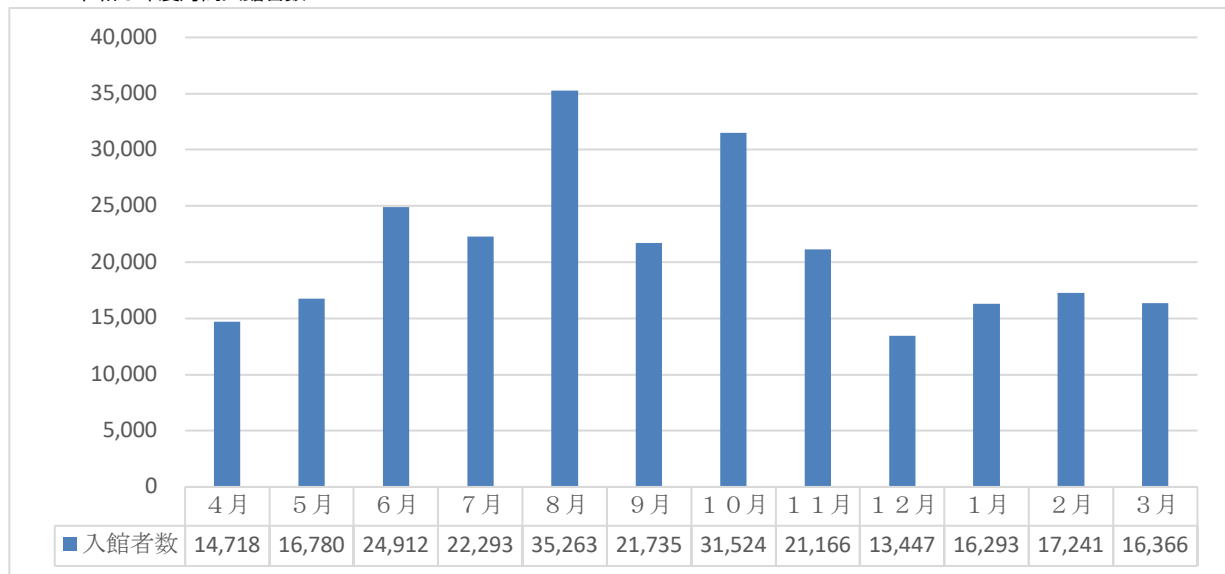
「ジャコウネズミの系統地理：遺伝子から見る人類の軌跡」鳥巢捷斗（北大環境科学院修士課程2年）

「日本列島の小型哺乳類の起源と進化」鈴木仁（北大環境科学院名誉教授）

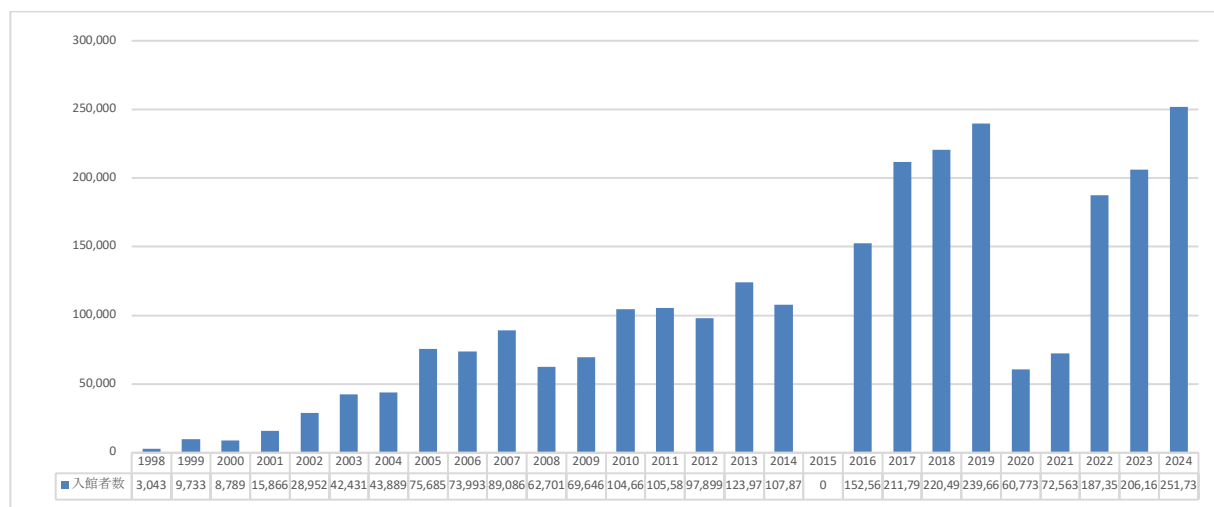


## 北海道大学総合博物館入館者数の推移

・令和6年度月間入館者数



・年間入館者数（人）



※平成10年11月試行的に開設（3階アイランドアーク） ※平成11年4月1日開設

※平成13年9月27日 1階展示ゾーン開設 ※平成17年11月3日2階展示ゾーン開設

※平成27年4月1日～平成28年7月25日 耐震改修工事のため休館 ※平成28年7月26日リニューアルオープン

※令和2年2月29日～7月13日,令和3年5月3日～6月30日,令和3年8月27日～10月3日 新型コロナウイルス感染防止のため臨時休館

## B セミナー

### ・土曜市民セミナー

令和6年度は、「北大の探究心2024」をテーマとして、博物館に着任した特任助教の講演に続いて、一年を通して主に夏季企画展「北大の探求心 2024」と連動して、参画される部局の教員が講師となった。後期は更に北大総合博物館の「北大の学び舎」展示で紹介されている「一押し研究者」が講師となり、セミナーを実施した。

(令和7年2月の土曜市民セミナーは演者都合により講演中止)

令和6年4月13日(土)

タイトル「江戸時代のニワトリの話」

演者：許 開軒（北海道大学総合博物館 特任助教）

令和6年5月11日(土)

タイトル「津波の科学と防災―東北地震津波，能登半島地震津波から学ぶ―」

演者：渡部靖憲（北海道大学大学院工学研究院 教授）

令和6年6月8日(土)

タイトル「DNA情報を用いることで分かってきたエゾフウロ変種群のちょっと複雑な分布変遷過程」

演者：倉田正観（北方生物圏フィールド科学センター 助教）

令和6年7月13日(土)

タイトル「文字を通して見るスラブ人の世界」

演者：野町素己（スラブ・ユーラシア研究センター 教授）

令和6年8月10日(土)

タイトル「地層から読み解く人新世」

演者：山本正伸（北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授）

令和6年9月14日(土)

タイトル「身の回りの環境と人々の健康から世界の健康へ」

演者：岩田啓芳（環境健康科学研究教育センター 特任准教授）・田村菜穂美（環境健康科学研究教育センター 特任講師）・山本理恵子（環境健康科学研究教育センター 特任助教）・アイツバマイゆふ（環境健康科学研究教育センター 特任准教授）

令和6年10月12日(土)

タイトル「北海道大学のサステナビリティ」

演者：加藤 悟（サステナビリティ推進機構 教授）

令和6年11月16日(土)

タイトル「アイヌ工芸の新たな展開に向けて」

演者：山崎幸治（アイヌ・先住民研究センター 教授）

令和6年12月14日(土)

タイトル「さまざまな民事紛争解決手続」

演者：横路俊一（北海道大学大学院法学研究科 准教授）

令和7年1月25日(土)

タイトル「仮想空間で魚を獲る・育てる：シミュレーションを活用した水産研究」

演者：高橋勇樹（北海道大学大学院水産科学研究院 准教授）

令和7年3月8日(土)

タイトル「西洋教育思想におけるeducationとdiscipline—educationは引き出すことか？—」

演者：白水浩信（北海道大学大学院教育学研究院 教授）

#### ・バイオメティクス市民セミナー

北海道大学総合博物館/バイオメティクス市民セミナー・公立千歳科学技術大学オープンサイエンスパーク千歳  
共同開催 下村正嗣先生退官記念学術講演会 「自己組織化、バイオメティクス、そしてエコメティクスへ」

令和6年7月6日(土)

タイトル「昆虫採集から次世代のバイオメティクスへ」

演者：野村周平（国立科学博物館）

タイトル「捨てる・使わない農産部位をうまく使う取り組み／植物の根の状態を電気で測る取り組みの紹介」

演者：本間知夫（前橋工科大学）

タイトル「『自然は師でありコモンズである』—支笏湖鏡面現象の発生予測などを例として—」

演者：曾我聡起（公立千歳科学技術大学）

タイトル「環境問題対応型研究（IMF-2430）：自然の模倣を通じた発想転換型イノベーションの科学技術社会論的研究」

演者：香坂 玲（東京大学）

タイトル「一つの地球で暮らすということ！」

演者：石田秀輝（地球村研究室）

・その他

- 北海道大学初任事務職員実地研修

目的：本学初任事務職員が来館者絵の解説・案内を通して、北海道大学への理解と知識をより深め、職員としての意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を身につける。

経緯：2017 年度より実施（2020・2021 年度はコロナ禍での休館のため実施せず）

研修生の報告から・・・博物館ニュース参照

研修生：2024 年度初任事務職員 27 名

内容：7 月 総合博物館の使命や役割、来館者対応についての講義と全館見学案内（湯浅万紀子）

7月 31日～8月2日4 グループに分かれて 2 時間の見学対応

## C 公開シンポジウム

今年度は実施しなかった。

## D ボランティア活動

1999 年度から、総合博物館では標本整理や展示解説などの分野でボランティア活動を推進している。

15 分野へと幅も広がり、登録者数も増えている。各グループでの研修に加え、博物館の研究と教育に幅広く関心を持ってもらい、ボランティアの交流を促進するため、博物館が主催してボランティア講座・交流会を開催している。水産科学館でも標本整理に学生ボランティアが活動している。

| 分野            | 担当者                           | 登録者数 |
|---------------|-------------------------------|------|
| ボランティア・マネジメント | 湯浅万紀子、山田久恵、（福岡久典、市来紗都子、土田江里子） |      |
| ・化石           | 小林快次                          | 28名  |
| ・考古           | 江田真毅                          | 41名  |
| ・昆虫           | 大原昌宏                          | 28名  |
| ・植物           | 首藤光太郎                         | 40名  |
| ・展示解説         | 湯浅万紀子                         | 18名  |
| ・遠友夜学校        | 阿部剛史、（藤田正一）                   | 9名   |
| ・歴史展示         | 阿部剛史、（藤田正一）                   | 5名   |
| ・4Dシアター       | 北野一平                          | 15名  |
| ・メディア         | 大原昌宏                          | 2名   |
| ・チェンバロ        | 大原昌宏                          | 12名  |
| ・図書           | 江田真毅、大原昌宏                     | 12名  |

|                      |            |     |
|----------------------|------------|-----|
| ・第2農場                | 近藤誠司、首藤光太郎 | 13名 |
| ・ハンズオン               | 北野一平、湯浅万紀子 | 7名  |
| ・きたみてガーデン            | 首藤光太郎      | 11名 |
| ・地学                  | 北野一平       | 18名 |
| ボランティア等関連団体          |            |     |
| ・北大ミュージアムクラブMouseion | 湯浅万紀子      |     |

#### ボランティア表彰対象の方々

5年表彰：安部布実子（4Dシアター）、内田耕平（考古）、加藤啓子（4Dシアター）、永岡明美（展示解説、チェンバロ）、平井由実果（4Dシアター）、堀 隼輔（考古） 計6名

10年表彰：斉藤光信（昆虫）、藤田 玲（植物）、松田義章（展示解説、地学） 計3名

#### 「きたみてガーデンSDGs農園プロジェクト」の表彰

北海道大学が、「北海道マラソン2024 SDGsの取り組み」として、2024年12月に公益財団法人日本陸上競技連盟のBEST THINK賞を受賞した。その主要項目として、ボランティアグループ「きたみてガーデン」と、北海道大学サステナビリティ推進機構SDGs事業推進部門、同北方生物圏フィールド科学センター、北海道新聞社が共同で実施した「きたみてガーデンSDGs農園プロジェクト」が評価された。キャンパスで回収された落葉を利用した腐葉土を用いて本館中庭で野菜を育て、その野菜を使用したオリジナルメニューを、カーボローディングパーティやミュージアムカフェ「ぼらす」において、ランナーや一般来館者に提供した。

## E 自治体や他機関との協定締結

神流町恐竜センター（2013年6月1日より）

むかわ町（2014年9月1日より）

北海道立北方民族博物館（2015年3月24日より）

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会（2018年12月18日より）

札幌市青少年科学館（2023年7月21日より）

## F その他

### ・研究報告会

毎年度末に、研究部、資料部、学生・院生、ボランティアから発表者を募り、博物館活動を報告する会。2018 年度以来の対面開催となった。新型コロナウイルス蔓延の影響によって縮小された博物館活動は、感染拡大防止対策をしながら、少しずつ活動を広げていった。

開催日：令和 7 年 3 月 24 日（月）対面開催

14:00 館長の挨拶（坪田敏男館長）

14:10 全体報告（江田真毅研究部長）

14:30 研究部研究報告（小林快次先生・越前谷宏紀資料部研究員）

14:50 資料部長から全体報告（小澤丈夫資料部長）

15:00 資料部研究員研究報告（佐藤謙資料部研究員・春木雅寛資料部研究員）

15:30 学生・院生研究報告（金子和広さん、下中淳ノ介さん、多久和隼さん）

16:00 ボランティア会長から報告（在田一則ボランティア会長）

16:10 ボランティア活動報告（考古(骨)グループ：ボランティアさん）

16:25 ボランティア表彰（5 年、10 年）・2024 年度後期 ミュージウムマイスター認定式

16:40 館長から閉会の挨拶（坪田敏男館長）

### ・北海道大学ホームカミングデー

北海道大学では、平成 24（2012）年度から、同窓生などをキャンパスに招いて交流を深め、本学の今を知っていただく「北海道大学ホームカミングデー」を開催している。総合博物館では初年度より協力を行之、同窓生や関係者、来館者から好評をいただいている。

開催日：令和 6 年 9 月 28 日（土）

場所：総合博物館

### ・高校教育との連携

今年度は実施しなかった。

・ **Innovate MUSEUM 事業**

文化庁の令和 6 年度Innovate MUSEUM 事業は不採択。

・ **SDGsデー**

北海道大学サステナビリティ推進機構 SDGs 事業推進本部と札幌テレビ放送（STV）主催の北海道大学×STV 「SDGs デー2024」が北海道大学総合博物館で開催された。オープニングイベントの当館坪田敏男館長による一般講演「ホッキョクグマの未来を考える」をはじめ、総合博物館での恐竜、考古、植物、岩石・鉱物の 4 分野のワークショップ、10 種類の展示標本を探す謎解き探検カードラリーが実施された。

開催日：令和 6 年 11 月 2 日（土）対面開催

・ **第 27 回大学博物館等協議会・第 19 回日本博物科学会**

大学博物館等協議会は、大学附置の博物館や設置準備委員会、国立博物館等で創設された団体である。その第 27 回大会および第 19 回日本博物科学会が琉球大学で開催された。当初は一昨年開催予定だったが新型コロナウイルスの感染拡大の影響で 2 年延期となつての対面開催となった。シンポジウム「大学博物館との連携で拓く地域・学術の未来」では、辻館長による趣旨説明の後、琉球大学の西田睦学長、北九州市立自然史・歴史博物館の伊澤雅子館長、琉球大学博物館の佐々木健志先生、室蘭工業大学の上井幸司先生に近隣博物館との連携活動についてご講演いただいた。口頭発表は教育、研究、地域と社会連携、マネジメント、展示の 5 つのセッションからなる 15 件を数えた。（ポスター発表は無し）また特別見学会・ガイドツアーを琉球大学博物館（風樹館）で実施した。

開催日：令和 6 年 6 月 27 日（木） ・ 28 日（金）

場所：琉球大学博物館研究者交流施設50周年記念館

## VI. 国際的な活動

### A 各種協定締結

#### A 各種協定締結

1. ロシア・サハリン州立郷土博物館（2000 年 8 月 1 日より）
2. ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館（2009 年 11 月 18 日より）
3. フランス・ストラスブール動物学博物館（2009 年 11 月 20 日より）
4. ロシア・カムチャッカ国立工科大学（2010 年 8 月 20 日より）
5. インドネシア・Padjadjaran 大学地質学部（2011 年 2 月 24 日より）
6. ロシア・イルクーツク工科大学（2011 年 6 月 1 日より）
7. モンゴル科学アカデミー古生物学研究所（2011 年 8 月 15 日より 2030 年 5 月 20 日）
8. アメリカ合衆国テキサス州ダラス自然史博物館（2011 年 8 月 23 日より 2021 年 8 月 22 日）
9. タイ王国国立科学博物館（タイ）（2012 年 9 月 19 日より 2021 年 7 月 26 日）
10. 韓国地質資源研究院地質博物館（2013 年 3 月 20 日より 2023 年 3 月 19 日）
11. アメリカ合衆国・アラスカパシフィック大学（2021 年 9 月 2 日より 2031 年 9 月 1 日）

### B 客員教授・外国人研究員

今年度は該当者がいなかった。

## VII. 広報 博物館ニュース、HP、FB、新聞報道記録など

### ・博物館ニュース

46号と47号を出版した。



#### CONTENTS

|    |                |
|----|----------------|
| 01 | 新館長就任挨拶        |
| 02 | プレスリリース        |
| 07 | 通任挨拶           |
| 09 | 卒論ゼミ生発表会       |
| 11 | クラーク博士の玄孫ご家族来訪 |



#### CONTENTS

|    |                |
|----|----------------|
| 01 | 新館長就任挨拶        |
| 02 | プレスリリース        |
| 07 | 通任挨拶           |
| 09 | 卒論ゼミ生発表会       |
| 11 | クラーク博士の玄孫ご家族来訪 |



### ・ホームページ掲載

4月2日 2024年度前期土曜市民セミナー「北大の探求心 2024」開催のお知らせ

4月2日【4月13日開催】2024年度第1回土曜市民セミナー「江戸時代のニワトリの話」

4月16日【5月11日開催】2024年度第2回土曜市民セミナー「津波の科学と防災 一東北地震津波，能登半島地震津波から学ぶ」

4月16日【4月29日より】札幌農学校第2農場 一般公開のご案内

5月11日【6月8日開催】2024年度第3回土曜市民セミナー「DNA情報を用いることで分かってきたエゾフウコ変種群のちょっと複雑な分布変遷過程」

5月13日【5月13日開催】2023年度後期 ミュージアムマイスター認定式

5月14日2024春 新・学生企画ミュージアムグッズ（1）販売開始

5月29日【7月28日開催】ポプラチェンバロとバロックアンサンブルによるミュージアムコンサート開催のお知らせ

5月31日令和6年10月度 北海道大学総合博物館研究生 募集要項

6月8日【7月13日開催】2024年度第4回土曜市民セミナー「文字を通して見るスラブ人の世界」

6月18日【7月6日開催】北海道大学総合博物館バイオメテックス市民セミナー・公立千歳科学技術大学

オープンサイエンスパーク千歳 共同開催 下村政嗣先生退官記念学術講演会

6月19日【第1期 7月5日～8月12日 / 第2期 8月20日～9月29日開催】令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」

6月19日2024初夏 新・学生企画ミュージアムグッズ（2） 販売開始

7月5日臨時開館のお知らせ(8月5日)

7月13日【8月10日開催】2024年度第5回土曜市民セミナー「地層から読み解く人新世」

7月16日ボランティア活動内容2024

7月17日【2024年8月10日・11日開催】昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

7月24日SPレコード鑑賞会終了のお知らせ

7月24日【9月14日・15日開催】植物パラタクソノミスト養成講座（中級）受講生募集

7月26日2024夏 新・学生企画ミュージアムグッズ（3）販売開始

7月30日小林快次教授が、STV『GXで変わる！SAPPOROの未来とは…』に出演いたします。

7月30日【研究報告】丹波篠山市産の恐竜化石の記載論文の出版および臨時展示の実施について

7月31日2024年8月新・学生企画ミュージアムグッズ（4）販売開始I

8月1日【8月3日・8月22日開催】『探してみよう！ブック この（め）はだれ？』

8月1日全学停電に伴う臨時休館、第二農場屋内の一般公開中止のお知らせ（9月1日）

8月7日【2024年9月7日開催】植物パラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

8月8日【2024年9月8日開催】考古パラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

8月15日【9月14日開催】2024年度第6回土曜市民セミナー「身の回りの環境と人々の健康から世界の健康へ」

9月4日【10月12日開催】2024年度第7回土曜市民セミナー「北海道大学のサステナビリティ」

9月11日2024年度 博物館実習が実施されています。

9月12日【10月26日開催】きのこパラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

9月17日資料部研究員 木村克也氏の研究が北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

9月25日水産科学館プレオープンのお知らせ

9月30日小林快次教授がSTVテレビ・ラジオに出演いたします。

10月4日現在開催中！【10月22日～10月27日開催】ピンチのおとも展

10月4日現在開催中！【10月10日～11月30日開催】ホッキョクグマ展 / 11月2日『ホッキョクグマの未来を考える』トークショー開催

10月12日【11月16日開催】2024年度第8回土曜市民セミナー「アイヌ工芸の新たな展開に向けて」

10月18日【11月17日開催】動物考古パラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

10月23日首藤光太郎助教授の研究が北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

10月23日北大総合博物館・『学生企画オリジナルミュージアムグッズ～2024 年の新展開のお知らせ～』が、北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

10月29日11月2日『北海道大学×STV SDGsデー2024』を開催いたします。

10月29日『10月29日放送』NHK番組「ワレコあつまれ」に 当館 小林快次教授が出演します。

10月30日【12月2日必着】教員の公募について・考古学

10月30日【12月2日必着】教員の公募について・人類学

11月1日2024年度 卒論ポスター発表会 発表者・運営スタッフ募集

11月7日【12月7日開催】岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

11月11日 総合博物館内に「元気ショップいこ〜る」が出前出店します。（12月7日・8日）

11月16日【12月14日開催】2024年度第9回土曜市民セミナー「さまざまな民事紛争解決手続」

11月28日【12月28日〜1月4日】年末年始休館のお知らせ

11月29日北海道大学総合博物館研究生 募集要項

11月29日2024年度前期ミュージアムマイスター認定式

12月04日【12月28日〜1月6日】水産科学館(函館)休館のお知らせ

12月06日坪田敏男館長が第78回北海道新聞文化賞を受賞しました。

12月13日【1月31日必着】短時間勤務職員（研究支援推進員）募集について

12月11日当館 小林快次教授が12月18日よりクラウドファンディング『恐竜調査研究最前線：一極寒の地で生きた、恐竜たちの痕跡を求めて―』を開始いたします。

12月14日【1月25日開催】2024年度第10回土曜市民セミナー「仮想空間で魚を獲る・育てる：シミュレーションを活用した水産研究」

12月19日トガリネズミ展－様々な暮らし方を見てみよう！

1月6日水産科学館(函館)臨時休館のお知らせ（1月18日）

1月21日【3月1日・2日開催】2024年度北海道大学卒論ポスター発表会

1月21日小林快次教授監修の映画『恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！』がEテレで再放送！

1月22日博物館ニュース第49号が発行されました。

1月24日臨時休館のお知らせ（2月25日、3月12日）

1月24日小林快次教授の研究が北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

1月25日2024年度後期土曜市民セミナー「北大の学び舎 2024」開催のお知らせ

1月31日小林快次教授が、2月2日放送のNHK『ダーウィンが来た！』に出演いたします。

2月4日「“日本の恐竜の神”完全復元！カムイサウルス春休み特別展」開催（会場：NHK札幌放送局）

2月8日【3月8日開催】2024年度第12回土曜市民セミナー「西洋教育思想におけるeducationとdiscipline—educationは引き出すことか？—」

2月12日北大総合博物館が2024デジタルアーカイブ産業賞を受賞しました。

3月5日【報告】2024年度卒論ポスター発表会

3月8日2024年度卒論ポスター発表会 発表者・運営スタッフの事後考察

3月11日当館 坪田敏男館長がクラウドファンディング「第3弾 世界のクマ研究最前線—地球の未来をクマの生態から読み解く—」を開始いたしました。

3月13日太郎助教の研究が北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

3月14日「ホネボラ作 押し標本展」開催のお知らせ

3月26日2024年度後期ミュージアムマイスター認定式授業・マイスター

3月26日2024年度ボランティア表彰式

3月26日小林快次教授の研究が北海道大学のプレスリリースで紹介されました。

#### ・フェイスブック掲載

4月2日土曜市民セミナー、2024年度第1回目の開催が4月13日に決定いたしました。

4月2日2024年度前期の土曜市民セミナーの開催日程が決定いたしました。

4月24日【5月11日開催】2024年度第2回土曜市民セミナー「津波の科学と防災 ―東北地震津波、能登半島地震津波から学ぶ―」工学研究院 渡部靖憲

5月11日【6月8日開催】2024年度第3回土曜市民セミナー「DNA情報を用いることで分かってきたエゾフウロ変種群のちょっと複雑な分布変遷過程」北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション苫小牧研究林倉田正観

5月13日【5月13日開催】2023年度後期のミュージアムマイスター認定式

5月14日2024春 新・学生企画ミュージアムグッズ（1）販売開始

6月6日【7月28日開催】ポプラチェンパロとパロックアンサンブルによるミュージアムコンサート開催のお知らせ

6月19日令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」開催のお知らせ【第1期: 7月5日(金)～8月12日(月)/第2期:8月20日～9月29日】

6月19日2024初夏 新・学生企画ミュージアムグッズ（2）販売開始

6月20日北海道大学総合博物館バイオメティクス市民セミナー・公立千歳科学技術大学オープンサイエンスパーク千歳 共同開催 下村政嗣先生退官記念学術講演会～自己組織化、バイオメティクス、そしてエコメティクスへ

6月29日【7月13日開催】2024年度第4回土曜市民セミナー「文字を通して見るスラブ人の世界」スラブ・ユーラシア研究センター野町素己

7月18日令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」【第I期展示】7月5日～8月12日【第II期展示】8月20日～9月29日

7月18日【2024年8月10日・11日開催】昆虫パラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

7月18日【8月10日開催】2024年度第5回土曜市民セミナー「地層から読み解く人新世」地球環境科学研究山本正伸

7月24日【2024年9月14日・9月15日開催】植物パラタクソノミスト養成講座（中級）の受講者募集

7月26日2024夏 新・学生企画ミュージアムグッズ（3）販売開始

7月30日【8月3日放送】小林快次教授が、STV『GXで変わる！SAPPOROの未来とは…』に出演いたします！

7月31日2024年8月 新・学生企画ミュージアムグッズ（4）販売開始

8月1日【8月3日・8月22日開催】子ども向けプログラム～探してみよう！～ブックこの（目）はだれ？

8月1日北大全学停電に伴い9月1日（日）当館は臨時休館となります。

8月7日【9月7日開催】植物パラタクソノミスト養成講座（初級）の受講者を募集します。

8月8日【9月8日開催】考古パラタクソノミスト養成講座（初級）の受講者を募集します。

8月15日【9月14日開催】2024年度第6回土曜市民セミナー「身の回りの環境と人々の健康から世界の健康へ」北海道大学環境健康科学研究教育センター 岩田 啓芳先生・田村菜穂美先生・山本理恵子先生・アイツバマイゆふ先生

8月24日令和6年度夏季企画展「北大の探求心2024」（第二期）を現在開催中です。

9月11日2024年度 博物館実習が9月10日(火)から始まりました。

9月12日【10月26日開催】きのごパラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

9月14日【10月12日開催】2024年度第7回土曜市民セミナー「北海道大学のサステイナビリティ」サステイナビリティ推進機構加藤悟

9月14日2024年度パラタクソノミスト養成講座が開催されています。

9月25日【10月1日～】水産科学館プレオープンのお知らせ

9月30日【11月2日開催】『北海道大学×STV SDGsデー2024』

9月30日北海道大学×STV SDGsデー2024に関連して小林快次教授がSTVのテレビ・ラジオに出演

10月3日【10月10日～11月30日開催】『ホッキョクグマ展』

10月4日【10月22日～10月27日開催】『ピンチのおとも展』

10月10日 本日より開催！『ホッキョクグマ展』

10月15日【11月16日開催】2024年度第8回土曜市民セミナー「アイヌ工芸の新たな展開に向けて」アイヌ・先住民研究センター山崎幸治

10月18日【10月29日放送】NHK番組「ワレイコあつまれ」に、当館小林快次教授が出演いたします。

10月18日【11月17日開催】動物考古パラタクソノミスト養成講座（初級）の受講者を募集します。

10月22日 本日より開催！『ピンチのおとも展』

11月1日【3月1日・2日開催】卒論ポスター発表会の発表者と運営スタッフ募集します。

11月7日【12月7日開催】岩石パラタクソノミスト養成講座（初級）受講生募集

11月7日2024年度後期土曜市民セミナー「北大の学び舎 2024」開催のお知らせ

11月11日12/7（土）と12/8（日） 総合博物館内に「元気ショップいこ～る」が出前出店します。

11月16日【12月14日開催】2024年度第9回目土曜市民セミナー「さまざまな民事紛争解決手続」大学院法学研究科横路俊一

11月19日【12月10日～12月22日開催】トガリネズミ展－様々な暮らし方を見てみよう！

11月19日今年も北大総合博物館に大きなクリスマスツリーが登場しました。

11月28日総合博物館年末年始休館のお知らせ（12月28日～1月4日）

12月4日水産科学館(函館)休館のお知らせ（12月28日～1月6日）

12月6日北大総合博物館 坪田敏男館長が第78回北海道新聞文化賞を受賞しました。

12月7日【12月7日・12月8日開催】 総合博物館内に「元気ショップいこ～る」が総合博物館1階講義室「知の交差点」に出前出店しています。

12月14日【1月25日開催】2024年度第10回目土曜市民セミナー「仮想空間で魚を獲る・育てる：シミュレーションを活用した水産研究」水産科学研究院高橋勇樹

12月18日当館 小林快次教授が本日12月18日よりクラウドファンディング『恐竜調査研究最前線：一極寒の地で生きた、恐竜たちの痕跡を求めて』を開始いたします！！

12月19日【12月22日開催】「トガリネズミ展公開セミナー」のお知らせ

12月19日2024年度パラタクソノミスト養成講座は7講座が開催されました。

12月27日北大総合博物館年末年始休館のお知らせ（12月28日～1月4日）

1月6日水産科学館（函館）臨時休館のお知らせ（1月18日）

1月21日【3月1日・2日開催】2024年度北海道大学卒論ポスター発表会

1月21日【2月16日放送】小林快次教授監修の映画『恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！』がEテレで再放送！

1月31日【2月2日放送】小林快次教授が、NHK『ダーウィンが来た！』に出演いたします。

2月5日日本の恐竜の神”完全復元！カムイサウルス春休み特別展」開催（会場：NHK札幌放送局）

2月8日【3月8日開催】2024年度第12回目土曜市民セミナー「西洋教育思想におけるeducationとdiscipline—educationは引き出すことか？—」大学院教育学研究院白水浩信

2月12日北海道大学総合博物館が2024デジタルアーカイブ産業賞を受賞しました。

3月1日【3月1日(土)～2日(日)】2024年度北海道大学卒論ポスター発表会を本日と明日開催しています

3月6日2024年度卒論ポスター発表会報告

3月8日2025年3月1日（土）・2日（日）に開催された2024年度卒論ポスター発表会で、ポスター発表をした学生と運営に携わった学生の事後考察を一部ご紹介します。

3月11日当館 坪田敏男館長がクラウドファンディング「第3弾 世界のクマ研究最前線—地球の未来をクマの生態から読み解く—」を開始いたしました

3月14日「ホネボラ作 押し標本展」開催のお知らせ

3月26日2024年度後期ミュージアムマイスター認定式

3月26日2024年度ボランティア表彰式

・新聞報道記録（セミナー開催告知は除く。）

|    |              |       |                                                      |
|----|--------------|-------|------------------------------------------------------|
| 1  | 北海道新聞        | 4月 3日 | 道内の古生物リアルに 「化石先生」ら本出版                                |
| 2  | 北海道新聞        | 4月 3日 | 夢さぼトピック ゲーム機の史料価値に注目                                 |
| 3  | 北海道新聞        | 4月12日 | ヒグマ駆除強化86%賛成                                         |
| 4  | 北海道新聞        | 4月12日 | 見て食べて面白い 魚のヒレの不思議                                    |
| 5  | 毎日新聞         | 4月13日 | クマの生態調査費、CFで 北大教授ら呼びかけ                               |
| 6  | 北海道新聞        | 4月16日 | 日高山脈の特徴紹介 道自然保護協会長が講演                                |
| 7  | 朝日新聞         | 5月11日 | サハリンの植物 分類し大作698ページ                                  |
| 8  | 北海道新聞        | 5月16日 | 携帯基地局 知床に波紋                                          |
| 9  | 朝日新聞         | 5月17日 | むかわ竜に日本一の「新居」を                                       |
| 10 | 北海道新聞        | 5月21日 | ひと2024 古生物45種類を復元した細密画家                              |
| 11 | 北海道新聞苫小牧・日高版 | 5月23日 | 新博物館 年間3万5千人目標                                       |
| 12 | 北海道新聞        | 5月27日 | ヒグマ 有害個体排除を                                          |
| 13 | 朝日新聞         | 5月28日 | 障がい者支援施設で手作り アンモナイト型キャンドル                            |
| 14 | 北海道新聞        | 6月13日 | シマエナガ模型を彩色 自然写真家とクレヨン工房が開発                           |
| 15 | 北海道新聞        | 6月13日 | ディープに歩こう第11部 北24条・北大周辺7                              |
| 16 | 北海道新聞        | 6月27日 | 美幌など道内6博物館が協力 学芸員イチ推しの花 冊子に                          |
| 17 | 毎日新聞         | 6月27日 | photoリポート 標本制作団体が活躍 魅惑のホネの世界                         |
| 18 | 北海道新聞        | 7月 4日 | 羊蹄山頂にクマの足跡                                           |
| 19 | 北海道新聞        | 7月 6日 | 最先端の研究間近で 北大で企画展始まる                                  |
| 20 | 北海道新聞        | 7月15日 | 北大キャンパス SGD実験場                                       |
| 21 | 北海道新聞釧路・根室版  | 7月23日 | 忘れえぬ人々 伊福部昭 作曲家・釧路市出身 番外編                            |
| 22 | 北海道新聞        | 7月25日 | ひと 恐竜博士を目指す緑が丘中1年                                    |
| 23 | 日本経済新聞       | 7月29日 | 「鳥類の親戚」化石は新種恐竜 兵庫の地層で発見<br>北大など分析 「眠る狩人」、爬虫類→鳥の進化解明へ |
| 24 | 毎日新聞         | 8月 1日 | 特集ワイド：ホッキョクグマに会いに行く                                  |
| 25 | 北海道新聞        | 8月 9日 | 恐竜の世界 興味津々                                           |
| 26 | 北海道新聞        | 8月17日 | 応援の沿道にも楽しみ                                           |
| 27 | 北海道新聞        | 8月20日 | 日弁連が知床調査 基地局整備 通信状態など確認                              |
| 28 | 北海道新聞        | 8月25日 | 恐竜や化石博物館に関心を 道が冊子配布                                  |
| 29 | 北海道新聞        | 8月29日 | ノーベル賞メダル 北大にレプリカ                                     |
| 30 | 北海道新聞        | 8月31日 | 〈胆振東部地震から6年〉むかわ竜全身骨格 床下に<br>新穂別博物館着工へ ガラス張り 常設展示     |
| 31 | 読売新聞         | 8月31日 | ノーベル賞の輝き 北大へ                                         |
| 32 | 毎日新聞         | 9月 5日 | 「ノーベル賞メダル」北大に リスト特任教授 レプリカ寄贈                         |

|    |        |        |                                     |
|----|--------|--------|-------------------------------------|
| 33 | 北海道新聞  | 9月30日  | 「未来人材育成館」あす開館<br>図書館×博物館 北大水産学部の新施設 |
| 34 | 北海道新聞  | 10月2日  | 北大の水産科学 来て見て知って 函館に新教育施設            |
| 35 | 読売新聞   | 10月5日  | 亜熱帯のサメ苦小牧沖に 室蘭で展示                   |
| 36 | 読売新聞   | 10月11日 | 最新の恐竜研究 学ぼう                         |
| 37 | 朝日新聞   | 10月27日 | クマと共に生きるには                          |
| 38 | 北海道新聞  | 10月27日 | 第78回北海道新聞文化賞 耕した世界 情熱に光             |
| 39 | 北海道新聞  | 11月9日  | 返礼品は博物館ツアー むかわ町 恐竜研究の小林教授が案内役       |
| 40 | 北海道新聞  | 11月11日 | 膨大な資料、市民にも開放<br>函館・北大「水産科学未来人材育成館」  |
| 41 | 北海道新聞  | 11月12日 | コンブは「宝物」 催しで魅力発信                    |
| 42 | 日本経済新聞 | 12月11日 | 太田精器の「モンスターウルフ」 害獣接近 光や音で撃退         |
| 43 | 北海道新聞  | 12月13日 | アラスカで発掘 費用募る 恐竜研究 北大・小林教授がCF        |
| 44 | 北海道新聞  | 12月16日 | むかわ町の化石触った！ 町が返礼品・博物館親子ツアー          |
| 45 | 埼玉新聞   | 12月18日 | 恐竜、寒さにどう耐えた？ 北極圏発掘調査へ寄付募集           |
| 46 | 北海道新聞  | 1月10日  | 海風 夢をかなえて                           |
| 47 | 朝日新聞   | 1月18日  | はじまりを歩く 米価を伝える商人らの情熱                |
| 48 | 北海道新聞  | 1月24日  | 生物の絶滅防ぐ対策を                          |
| 49 | 北海道新聞  | 2月11日  | 語る伝える 恐竜で経済効果 むかわ復興の象徴              |
| 50 | 読売新聞   | 2月14日  | ポロロの「婚活」春遠く とくしま動物園 ホッキョクグマ         |

・テレビ・ラジオ報道

|    |          |        |                       |
|----|----------|--------|-----------------------|
| 1  | NHKラジオ第一 | 5月 5日  | 「子ども科学電話相談」           |
| 2  | NHKラジオ第一 | 6月 2日  | 「子ども科学電話相談」           |
| 3  | NHKラジオ第一 | 8月 1日  | 「子ども科学電話相談」           |
| 4  | STV      | 8月 3日  | GXで変わる！SAPPOROの未来とは…  |
| 5  | NHKラジオ第一 | 8月18日  | 「子ども科学電話相談」           |
| 6  | STV      | 9月30日  | 「どさんこワイド179」          |
| 7  | STV      | 10月 4日 | 「どさんこワイド朝」            |
| 8  | STVラジオ   | 10月 5日 | 「明石のいんでしょ！大作戦！」       |
| 9  | NHK総合    | 10月29日 | 「ワレコあつまれ」             |
| 10 | NHK総合    | 11月 2日 | 「ワレコあつまれ」             |
| 11 | NHKラジオ第一 | 11月24日 | 「子ども科学電話相談」           |
| 12 | NHKラジオ第一 | 12月 1日 | 「子ども科学電話相談」           |
| 13 | NHKラジオ第一 | 12月31日 | 「子ども科学電話相談」           |
| 14 | NHK総合    | 2月 2日  | 「ダーウィンが来た！」           |
| 15 | NHKEテレ   | 2月16日  | 「恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！」 |
| 16 | NHKラジオ第一 | 2月16日  | 「子ども科学電話相談」           |
| 17 | NHK総合    | 3月31日  | 「北海道太古の生物図鑑」 ニッポノサウルス |
| 18 | NHKEテレ   | 3月31日  | 「北海道太古の生物図鑑」 ニッポノサウルス |

# VIII. 令和6年度予算状況

## ・運営費交付金

単位：千円

| 区 分     | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 当初配分予算額 | 43,302 | 44,811 | 41,458 | 41,352 | 41,460 |

## ・外部資金受入状況等

【科学研究費採択状況】

【科学研究費分担金一覧（他機関から受領する分）】

単位：千円

単位：千円

| 年 度    | 件数  | 金 額    |
|--------|-----|--------|
| 2020年度 | 11件 | 25,305 |
| 2021年度 | 11件 | 18,850 |
| 2022年度 | 4件  | 6,500  |
| 2023年度 | 6件  | 9,540  |
| 2024年度 | 7件  | 9,360  |

| 年 度    | 件数  | 金 額    |
|--------|-----|--------|
| 2020年度 | 11件 | 4,173  |
| 2021年度 | 14件 | 17,337 |
| 2022年度 | 10件 | 5,707  |
| 2023年度 | 10件 | 5,974  |
| 2024年度 | 6件  | 3,393  |

【受託研究受入状況】

単位：千円

| 年度          | 件 名                                                               | 相手方              | 金 額   |
|-------------|-------------------------------------------------------------------|------------------|-------|
| 2020～2022年度 | なし                                                                |                  |       |
| 2023年度      | 生物多様性保全・気候変動対策・地域振興を最適化させる自然公園設計：北海道東部・根釧地方における学際的研究と実践           | 独立行政法人環境再生保全機構   | 2,398 |
| 2024年度      | 生物多様性・生態系と食料生産・感染症対策のトレードオフを解消するための昆虫科学共創拠点に関する国立大学法人北海道大学による研究開発 | 国立研究開発法人科学技術振興機構 | 650   |

【寄附金の受入状況】

単位：千円

| 年 度    | 件 数 | 金 額     |
|--------|-----|---------|
| 2020年度 | 0件  | 0       |
| 2021年度 | 0件  | 0       |
| 2022年度 | 0件  | 0       |
| 2023年度 | 0件  | 0       |
| 2024年度 | 3件  | 894,000 |

【総合博物館支援基金】

単位： 円

| 受入年度   | 受入金額    |
|--------|---------|
| 2020年度 | 335,423 |
| 2021年度 | 318,723 |
| 2022年度 | 614,688 |
| 2023年度 | 861,418 |
| 2024年度 | 898,389 |

## IX. 令和6年度の主な出来事

- 4月 1日 許開軒特任助教 着任
- 4月 1日 係長 高橋宏市さん 着任
- 4月 1日 技術補佐員 福岡久典さん 着任
- 5月31日 ボランティアの会総会・ビデオ鑑賞会
- 6月 1日 事務補助員 高橋千華子さん 着任
- 7月 5日 夏季企画展「北大の探求心2024」【第1期 7月5日～8月12日 / 第2期 8月20日～9月29日】
- 7月28日 ポプラチェンバロとバロックアンサンブルによるミュージアムコンサート開催
- 8月 3日 子ども向けプログラム～探してみよう！～ブックこの（目）はだれ？
- 8月22日 子ども向けプログラム～探してみよう！～ブックこの（目）はだれ？
- 10月 1日 水産科学館プレオープン
- 10月10日 ホッキョクグマ展（～11/30）
- 10月22日 ピンチのおとも展（～10/27）
- 11月 2日 『北海道大学×STV SDGsデー2024』
- 11月28日 2024年度前期ミュージアムマイスター認定式
- 12月10日 トガリネズミ展 - 様々な暮らし方を見てみよう！（～12/22）
- 3月 1日 2024年度卒論ポスター発表会（～3/2）
- 3月22日 「“日本の恐竜の神”完全復元！カムイサウルス春休み特別展」（～4/6）
- 3月24日 令和6年度活動報告会
- 3月24日 2024年度ボランティア表彰式
- 3月24日 2024年度後期ミュージアムマイスター認定式
- 3月25日 「ホネボラ作 押し標本展」（～4/13）
- 3月31日 研究支援推進員 土田江里子さん 退職
- 3月31日 事務補助員 高橋千華子さん 退職

## X. 総合博物館の第4期（令和4～9年度）中期目標

### 中期目標

#### <基本的な理念と目標>

博物館独自の目標：『博物館の使命・目的・コンセプト』として、以下の4つを掲げている。1）学術標本の保管・整理、次世代への継承と情報の提供、2）学術資料を用いた学際的研究分野の開拓、3）展示・セミナー等を通じた教育普及活動、4）博物館文化の創造と発信。

大学の方針に沿った目標：総合博物館には、開学以来収集されてきた国内屈指の質・量をもつ学術標本・資料群が散逸せずに保管されている。一方、函館の総合博物館分館水産科学館や北方生物圏フィールド科学センター植物園博物館、同苫小牧研究林森林資料館等、貴重な学術標本・資料を保管する本学の施設は道内に散在している。学術標本・資料は、教育・研究の成果を明らかにするとともに、適切に分類・整理・登録し、組織的に保管・管理を行うことにより、次なる教育・研究を支援するための貴重な財産となる。これまで、総長裁量経費や科学研究補助金によりデータベース化を進めてきているものの、データベースの8点は日進月歩であり、例えば現在盛んに利用され始めている画像による検索等ができるものではない。

本学の第4期中期計画には、学術情報基盤を整備と研究データのアーカイブが盛り込まれている。現在デジタル化されていない学術標本・資料を含めてDX化し、全学に散在する学術標本・資料をオンラインで活用できるようにすることが研究力強化のために必要と考えられる。

分館水産科学館の展示施設の主要部は、施設老朽化のため閉館状態となっている。分館施設における諸活動の全面再開に向け、改築を目指す。

#### <教育に関する目標>

総合博物館では、展示制作と解説、グッズ開発、ポスター発表会などのプロジェクトの運営など、さまざまな学生教育を行ってきた。総合博物館独自の教育プログラムである、ミュージアムマイスター認定コースとパラタクソノミスト養成講座を継続し、多彩かつ多次元に本学の院生や学生の質の向上に努める。卒論ポスター発表会を開催し、新規にSDGs賞を設ける。また、総合博物館独自の全学教育科目や大学院共通科目の提供と、学芸員関連科目および博物館実習を継続し、引き続き本学の教育に貢献する。各教員は、他部局を兼務する形でそれぞれの専門分野の講義を担当し、院生・学生の研究を指導している。今後もこれからの教育活動を継続し、各分野の研究レベル向上に貢献する。

中期計画は以下の通りである。

- ・ミュージアムマイスター認定コースのマイスター認定：年2名以上
- ・卒論ポスター発表会の開催：年1回（SDGs賞を新規創設）
- ・パラタクソノミスト養成講座の開催：年間3回以上
- ・全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習の担当
- ・兼担する他部局の院生や学生の研究指導

### ＜研究に関する目標＞

総合博物館には、300 万点を越える国内屈指の学術標本・資料群がある。これらの学術標本・資料を利用した研究促進のために、標本・資料の収集と整理を行う。また、研究力強化のために、総合博物館所蔵の学術標本・資料の DX 化を進める。博物館標本・資料を用いた研究を推進し研究を論文として出版する。さらに、資料部研究員の研究の活性化を促す。これらの研究成果を積極的に発信し、総合博物館の研究活動の高さを伝える。

中期計画は以下の通りである。

- ・学術標本・資料利用点数：年 100 点以上
- ・新規登録学術標本・資料点数：年 1,000 点以上
- ・学術標本・資料のDX 化
- ・標本を利用した論文出版：年 10 本以上
- ・査読付き論文出版：年 10 本以上
- ・資料部研究員による年次報告会での発表：2 題以上
- ・プレスリリースの発信：年 2 回以上
- ・博物館ニュースの出版：年 2 回

### ＜社会貢献に関する目標＞

近年、総合博物館の入館者数は国内大学博物館でトップクラスの数で、札幌市の観光施設で 15 位前後に位置している。常設展示では、本学の最新の教育・研究の成果を常に示すよう努めており、これは本学としても特質すべき社会貢献と言える。今後も、常設展示の運用、企画展示の開催、セミナーやイベントの開催などの博物館活動を継続し、本学の最新の教育・研究成果を発信する。また、新規の計画として本学全体の指針である SDGs への取り組みや本学発ベンチャー企業の支援などのための情報発信も担う。さらに、展示の DX 化を図る。当館の活動は 200 人を超えるボランティアに支えられており、同時に生涯学習の場を提供している。今後もこの日本の博物館として最大規模のボランティア組織を円滑に維持・運営していく。

中期計画は以下の通りである。

- ・入館者数：年 15 万人以上
- ・夏季企画展の開催：年 1 回
- ・常設展示の維持・発展：デジタルサイネージを毎年更新
- ・常設展示において北大が取り組んでいる SDGs の研究や教育を紹介
- ・北大発ベンチャー企業の取り組みの展示を開始
- ・展示のDX 化
- ・土曜市民セミナーやその他のイベントの開催：年 15 回
- ・ボランティア：登録者数を 200 人維持し運営
- ・年次報告会の開催：年 1 回
- ・HP やfacebook を随時更新

- ・オープンキャンパス、ホームカミングデー、サステナビリティウィークへの協力
- ・大学博物館協議会・博物科学会の開催